

(様式1)

平成24年度 業務実績報告書（暫定版）

（第1期中期計画・第4事業年度）

平成25年2月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

(注) 本報告書は、平成24年9月まで(一部直近データ)の実績により調製した暫定版であり、今後、変更が見込まれる。

目 次

I 機構の概要（平成24年4月1日現在）

1 名 称	1
2 所在地	1
3 法人の設立年月日	1
4 設立団体	1
5 目的	1
6 業 務	1
7 資本金の額	1
8 代表者の役職氏名	1
9 役 員	2
10 組 織 図	2
11 法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間	5
2 業務実績全般	5
(1) 機構全体	5
(2) 総合病院	19
(3) こころの医療センター	26
(4) こども病院	31
3 項目別実績	37
中期計画 第1－1 医療の提供	37
〃 第1－2 医療に関する調査及び研究	46
〃 第1－3 医療に関する技術者の研修	49
〃 第1－4 医療に関する地域への支援	50
〃 第1－5 災害等における医療救護	55
〃 第1－6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成	57
〃 第2－1 簡素で効率的な組織づくり	60
〃 第2－2 効率的な業務運営の実現	60
〃 第2－3 事務部門の生産性の向上	62
〃 第2－4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	62
〃 第2－5 就労環境の向上	63
(参考) 用語解説	65

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (平成24年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

① 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

② 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6,822,733,469円

8 代表者の役職氏名

理事長 神原 啓文

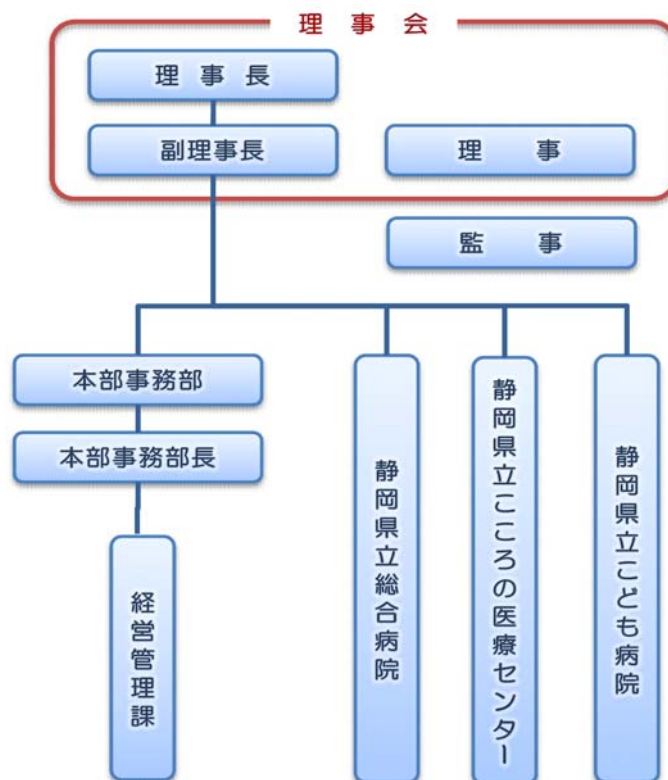
9 役員

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	神原 啓文
副理事長	常勤	杉山 純
理事	常勤	瀬戸 嗣郎
理事	常勤	村上 直人
理事	非常勤	後藤 康雄
理事	非常勤	坂元 玉枝
理事	非常勤	椎名 正樹
理事	非常勤	種本 鏡子
監事	非常勤	小池 賢
監事	非常勤	鈴木 素子

(新任 平成24年4月1日～)

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組織図



○ 全職員数（平成24年4月1日現在、現員）

医師 ※	336名
看護師	1,164名
コメディカル	270名
事務	101名
計	1,871名

※医師には歯科医師3名、自治医初期研修医4名、へき地代診医師1名、有期職員医師117名を含む。

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、脳神経外科、消化器内科、外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科
	29科	4科	18科
許可病床数 (24年度)	一般 620床 結核 100床 (稼働 50床)	精神 280床 (稼働 180床)	一般 243床 精神 36床
年間延患者数 (H24計画)	入院 216,609人 外来 392,938人	入院 57,991人 外来 42,687人	入院 74,299人 外来 92,836人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	すべての子どもと家族のために、安心、信頼、満足の得られる医療を行います。 (平成22年4月改定)
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

区分	病棟	許可 病床数	内 容	
総 合	本 館	3 A	—	ハイケアユニット(HCU) (平成24年7月から12床開設)
		3 B	37	小児科、耳鼻咽喉科、総合診療科
		3 D	45	女性診療センター(産婦人科)、小児科 (" から44床)
		4 A	47	整形外科、外科、放射線科 (" から44床)
		4 B	47	腎センター(腎臓内科、泌尿器科) 糖尿病・内分泌代謝センター(内分泌代謝科)
		4 D	43	血液内科、眼科、腎臓内科、歯科 (" から42床)
		5 A	47	外科、歯科、麻酔科 (" から46床)
		5 B	47	消化器センター(消化器内科) (" から46床)
		6 A	50	結核(休棟)
		6 B	50	結核
		6 C	49	呼吸器センター
		6 D	39	呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科)、消化器科、R I
	北 館	3 E	45	整形外科 (" から43床)
		4 E	35	外科、形成外科、皮膚科 (" から34床)
		5 E	19	緩和ケア
	セ ン タ ー	救急	10	救急科
		3 G	14	集中治療室 (" から12床)
4 G		47	循環器病センター(循環器科、心臓血管外科)	
5 G		49	脳神経センター(神経内科、脳神経外科)	
	計	720	(稼働670床)	
こ こ ろ	北1	42	医療観察法12床、慢性重症30床	
	北2	45	急性期	
	北3	50	(休棟)	
	南1	50	回復期	
	南2	43	救急	
	南3	50	(休棟)	
	計	280	(稼働180床)	
こ ど も	北2	33	新生児未熟児 (平成24年9月から36床)	
	北3	28	内科系乳幼児 (" から31床)	
	北4	28	感染観察	
	北5	28	内科系幼児学童	
	西2・MF ICU	24	産科、MF ICU	
	西3・CCU	36	循環器科、CCU	
	OPE	6	日帰り手術ユニット (" から廃止)	
	P ICU	12	P ICU	
	西6	48	外科系	
	東2	36	こころの診療科	
	計	279		

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

平成24年4月1日から平成25年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

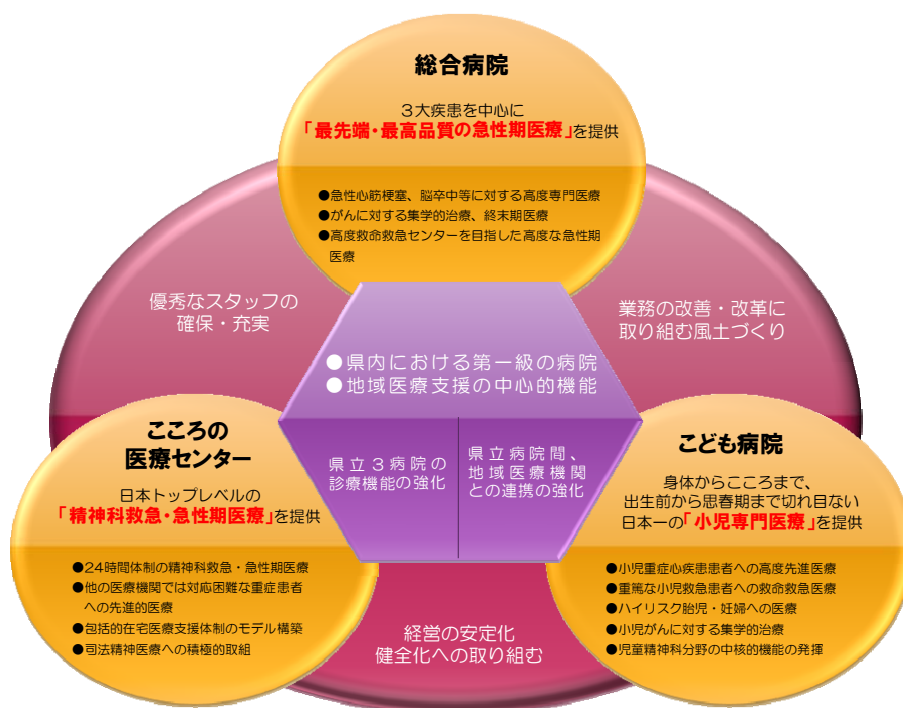
ア 総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化4年目となる24年度前半の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数が総合病院で計画を下回っているものの、他の2病院は計画を上回って推移している。単価はこども病院を除き計画を上回って推移している。また、外来では、総合病院で延患者数、単価ともに計画を上回っている他、こころの医療センターは単価、こども病院は延患者数が計画を上回って推移している。収支は、経常収支が1,420百万円余(経常収支比率103.9%)、総収支が1,162百万円余で、現在の状況を年度後半もこのまま維持できれば、4年連続で黒字決算を達成できる見込みである。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、職員一丸となって「患者満足度日本一」の病院を目指す。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数となる見込みであるが(▲4,926人)、患者1人1日当り入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）は計画を上回る見込み(+2,987円)であることから、計画と比べると収入は増加している。
- ・ こころの医療センターは、入院患者数の増加傾向が続いたことから、延患者数は計画を上回る見込み(+573人)である。また、患者単価が高い医療観察法病床や救急急性期病床の稼働率が高まったことから、入院単価も計画を上回る見込み(+186円)である。
- ・ こども病院は、延患者数は計画並み(+1,038人)の見込みであるが、入院単価は計画を下回る見込み(▲4,419円)であることから、計画と比べると収入は若干減少する見込みである。ICU病床増に伴う小児集中治療科の単価の伸びが大きくなっている。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を大幅に上回る延患者数の増加を見込み(+14,012人)、患者1人1日当り外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）も計画を上回る見込みである(+620円)。外来患者数は総合病院の外来のキャパシティを超過気味なので、逆紹介を積極的に推進しているが、歯止めがかからない状況である。
- ・ こころの医療センターは、救急や新患外来への積極的な取組を行った結果、新規患者数が増加したものの、延患者数は計画を下回る見込み(▲1,979人)であるが、外来単価は計画を上回る見込み(+170円)である。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を上回る見込み(+4,969人)であるが、外来単価が計画を下回る見込み(▲747円)であるため、収入は計画を若干下回る見込みである。

平成24年度 業務量及び業務実績（税込）【H24.9月末までの実績による年間見込み】

区 分		総 合	こころ	こども	計
入 院	入院延患者数(人)	211,683 (216,609)	58,691 (57,991)	75,337 (74,299)	345,711 (348,899)
	新入院患者数(人)	15,364	515	5,119	20,998
	病床利用率(%)	一般90.3 (一般91.7)	稼働89.3 (稼働88.3)	74.0 (73.0)	85.9 (86.3)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	62,490 (59,503)	22,273 (22,060)	85,366 (89,785)	60,648 (59,728)
外 来	外来延患者数(人)	406,950 (392,938)	37,850 (42,687)	97,805 (92,836)	542,605 (528,461)
	外来初診患者数(人)	24,218	974	8,214	33,406
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	16,598 (15,978)	6,035 (5,865)	12,373 (13,120)	15,100 (14,659)

※（ ）書きは、年度計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

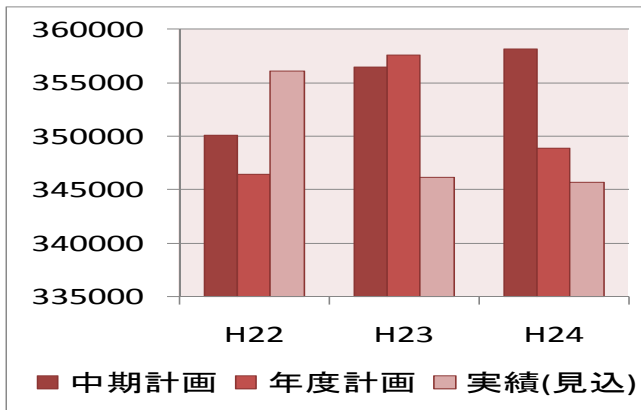
※病床利用率は、総合620床、こころ180床、こども279床で算定。

<参考資料>

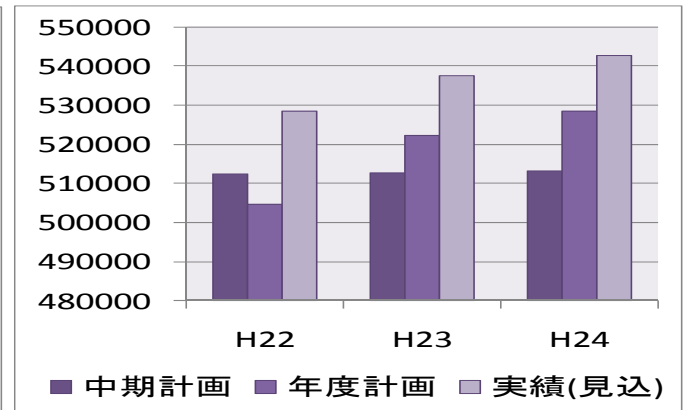
○患者数の推移 (22年度実績～24年度見込)

(単位：人)

入院延患者数 (3病院計)



外来延患者数 (3病院計)



・H24は入院延患者数が中期計画・年度計画を下回るものの、外来延患者数は中期計画・年度計画を上回る見込みである。

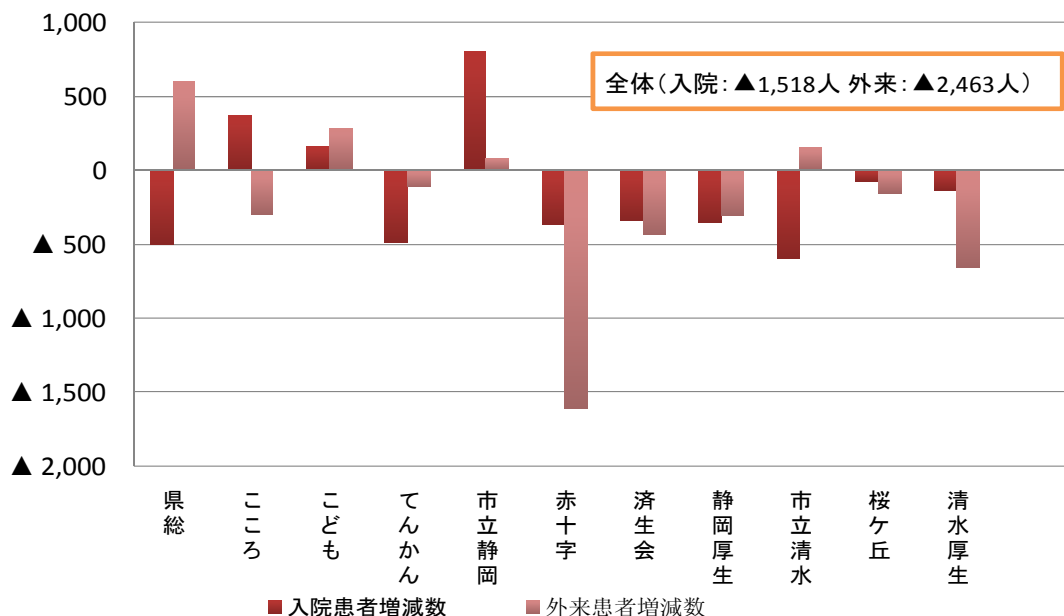
○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数：H24.4～H24.9－H23.4～H23.9比較)

(単位：人、%)

区分	総合①	こころ②	こども③	てんかん④	市立静岡⑤	赤十字⑥	済生会⑦	静岡厚生⑧	市立清水⑨	桜ヶ丘⑩	清水厚生⑪	⑤～⑪小計	①～⑪合計	
入院	H24	17,696	4,941	6,202	10,466	14,487	11,570	12,843	5,264	11,522	3,097	1,586	60,369	99,674
	H23	18,194	4,570	6,040	10,954	13,686	11,941	13,181	5,617	12,124	3,168	1,717	61,434	101,192
	差	▲498	371	162	▲488	801	▲371	▲338	▲353	▲602	▲71	▲131	▲1,065	▲1,518
	率	▲2.7	8.1	2.7	▲4.5	5.9	▲3.1	▲2.6	▲6.3	▲5.0	▲2.2	▲7.6	▲1.7	▲1.5
外来	H24	34,019	3,300	8,113	2,904	23,973	18,515	18,845	8,963	19,506	7,741	6,999	104,542	152,877
	H23	33,413	3,601	7,831	3,017	23,891	20,126	19,283	9,270	19,356	7,902	7,651	107,478	155,341
	差	606	▲301	282	▲113	82	▲1,611	▲438	▲307	150	▲161	▲652	▲2,937	▲2,463
	率	1.8	▲8.4	3.6	▲3.7	0.3	▲8.0	▲2.3	▲3.3	0.8	▲2.0	▲8.5	▲2.7	▲1.6

・入院延患者は総合病院を含め市内の他病院で減少傾向である。なお、外来延患者は他病院が減少傾向にある中で、総合病院とこども病院は増加している。

市内公的病院月平均患者増減数(H24.4～9－H23.4～9) 単位：人



(ウ) 平成 24 年度収支実績 (税込) 【H24. 9 月末までの実績による年間見込み】

- ・ 総収支は、1, 162, 994 千円の利益となり、年度計画(11 月末)よりも 734, 895 千円増加する見込みである。
- ・ 経常収支は、1, 420, 603 千円の経常利益となり、年度計画よりも 644, 021 千円増加の見込みで、24 年度も経常収支比率 100%以上(103. 9%)を達成できる見込みである。
- ・ 医業収益は、総合病院で外来が延患者数、単価ともに計画を上回っていることから、外来収益は計画及び前年度を上回る見込みである(計画比+446, 431 千円、前年比+249, 424 千円)。また、入院収益は単価 UP の影響で、計画及び前年度を上回る見込みである(計画比+127, 393 千円、前年比+586, 431 千円)。
- ・ 医業費用は、材料費の増(計画比+451, 242 千円、前年比+668, 032 千円)や給与費の増(前年比+633, 208 千円)などにより増加する見込みであるため、年度後半に向けて効率的な執行に努める。

① 収益的収支 (税込) 【H24. 9 月末までの実績による年間見込み】

(単位：千円)

区分	款	項	11 月末予算額 (年度計画)	決算額 (見込み)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業収益	医業収益	29, 079, 529	29, 722, 887	643, 358	28, 917, 782	805, 105
		運営費負担金収益	6, 989, 992	6, 989, 992	—	6, 980, 172	9, 820
		資産見返負債戻入	209, 356	165, 266	▲44, 090	164, 577	689
		その他営業収益	269, 022	222, 925	▲46, 097	200, 814	22, 111
		小計	36, 547, 899	37, 101, 070	553, 171	36, 263, 345	837, 725
	営業外収益	運営費負担金収益	310, 008	310, 008	—	319, 828	▲9, 820
		その他営業外収益	413, 839	377, 917	▲35, 922	378, 427	▲510
		小計	723, 847	687, 925	▲35, 922	698, 255	▲10, 330
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—
	計		37, 271, 746	37, 788, 995	517, 249	36, 961, 600	827, 395
費用	営業費用	医業費用	35, 290, 355	35, 250, 528	▲39, 827	33, 557, 272	1, 693, 256
		一般管理費	402, 879	373, 623	▲29, 256	330, 202	43, 421
		小計	35, 693, 234	35, 624, 151	▲69, 083	33, 887, 474	1, 736, 677
	営業外費用	財務費用	540, 777	495, 632	▲45, 145	553, 401	▲57, 769
		その他営業外費用	211, 153	198, 609	▲12, 544	208, 925	▲10, 316
		小計	751, 930	694, 241	▲57, 689	762, 326	▲68, 085
	臨時損失	臨時損失	348, 483	257, 609	▲90, 874	196, 149	61, 460
	予備費	予備費	50, 000	50, 000	—	—	—
計		36, 843, 647	36, 626, 001	▲217, 646	34, 845, 949	1, 780, 052	
総収支		428, 099	1, 162, 994	734, 895	2, 115, 652	▲952, 658	
経常収支		776, 582	1, 420, 603	644, 021	2, 311, 801	▲891, 198	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

② 資本的収支 (税込) 【H24. 9 月末までの実績による年間見込み】

(単位：千円)

区分	款	項	11 月末予算額 (年度計画)	決算額 (見込み)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本収入	長期借入金	1, 344, 000	1, 099, 000	▲245, 000	1, 472, 000	▲373, 000
		その他収入	12, 400	188, 018	175, 618	233, 950	▲45, 932
		計	1, 356, 400	1, 287, 018	▲69, 382	1, 705, 950	▲418, 932
支出	資本支出	建設改良費	1, 806, 084	1, 500, 088	▲305, 996	1, 881, 538	▲381, 450
		償還金	2, 479, 046	2, 491, 816	12, 770	3, 353, 669	▲861, 853
		長期貸付金	96, 000	52, 200	▲43, 800	—	皆増
		計	4, 381, 130	4, 044, 104	▲337, 026	5, 235, 207	▲1, 191, 103
総収支		▲3, 024, 730	▲2, 757, 086	267, 644	▲3, 529, 257	772, 171	

(エ) 病院別収支実績

① 収益的収支 (税込) 【H24.9月末までの実績による年間見込み】

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
営業 収益	医業収益	20,536,737	1,541,194	7,644,956	—	29,722,887
	運営費負担金収益	2,460,247	1,115,107	3,414,638	—	6,989,992
	資産見返負債戻入	95,552	30,041	39,673	—	165,266
	その他営業収益	107,381	2,474	96,160	16,910	222,925
	小計	23,199,917	2,688,816	11,195,427	16,910	37,101,070
営業 外益	運営費負担金収益	135,790	64,646	109,572	—	310,008
	その他営業外収益	295,692	25,397	56,828	—	377,917
	小計	431,482	90,043	166,400	—	687,925
	臨時利益	—	—	—	—	—
収益計 (予算額※<年度計画> (増減額)		23,631,399 (22,802,972) (828,427)	2,778,859 (2,771,087) (7,772)	11,361,827 (11,679,187) (▲317,360)	16,910 (18,500) (▲1,590)	37,788,995 (37,271,746) (517,249)
営業 費用	医業費用	22,031,753	2,416,935	10,797,499	4,341	35,250,528
	一般管理費	—	—	—	373,623	373,623
	小計	22,031,753	2,416,935	10,797,499	377,964	35,624,151
営業 外用	財務費用	235,224	98,108	162,300	—	495,632
	その他営業外費用	121,982	6,298	68,329	2,000	198,609
	小計	357,206	104,406	230,629	2,000	694,241
	臨時損失	202,250	1,256	53,103	1,000	257,609
	予備費	—	—	—	50,000	50,000
費用計 (予算額※<年度計画> (増減額)		22,591,209 (22,327,223) (263,986)	2,522,597 (2,634,619) (▲112,022)	11,081,231 (11,422,195) (▲340,964)	430,964 (459,610) (▲28,646)	36,626,001 (36,843,647) (▲217,646)
総収支 (予算額※<年度計画> (増減額)		1,040,190 (475,749) (564,441)	256,262 (136,468) (119,794)	280,596 (256,992) (23,604)	▲414,054 (▲441,110) (27,056)	1,162,994 (428,099) (734,895)
経常収支 (予算額※<年度計画> (増減額)		1,242,440 (754,871) (487,569)	257,518 (144,924) (112,594)	333,699 (316,897) (16,802)	▲413,054 (▲440,110) (27,056)	1,420,603 (776,582) (644,021)

※予算額は11月末現在補正後。

- 総合病院の総収支は、1,040,190千円の利益となり、年度計画よりも564,441千円増加する見込みである。これは、入院患者数は計画を下回ったものの、それ以上に平成24年4月の診療報酬プラス改定により入院単価が伸びたこと、外来延患者数及び外来単価が年度計画を上回ったこと、平成18年度のPETセンターの減価償却が終了し、法人化後は大きな投資をしていないことから減価償却費が減少したことが主な要因である。
- こころの医療センターの総収支は、256,262千円の利益となり、年度計画よりも119,794千円増加する見込みである。これは、病棟稼働率の上昇により、年間の入院延患者数が増加したことから、収益は計画を上回る一方で、費用は経費節減の取組等により、計画を下回ることが主な要因である。
- こども病院の総収支は、280,596千円の利益となり、年度計画よりも23,604千円増加する見込みである。これは、入院・外来とも単価が計画を下回る見込みにより、収益が計画を▲317,360千円下回るものの、費用が材料費、経費の減により計画を▲340,964千円下回ることが主な要因である。

② 資本的収支（税込）【H24.9月末までの実績による年間見込み】

（単位：千円）

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
資本収入	長期借入金	632,000	34,000	433,000	—	1,099,000
	その他収入	188,018	—	—	—	188,018
	計	820,018	34,000	433,000	—	1,287,018
資本支出	建設改良費	1,032,573	34,515	433,000	—	1,500,088
	償還金	1,507,290	402,517	582,009	—	2,491,816
	長期貸付金	31,320	5,220	15,660	—	52,200
	計	2,571,183	442,252	1,030,669	—	4,044,104
総	収支	▲1,751,165	▲408,252	▲597,669	—	▲2,757,086

- ・24年度の建設改良費は、1,500,088千円の見込みで、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,295,863千円、また、建設改良工事が204,225千円となっており、主な工事は、総合病院において地域医療再生基金を活用した救命救急センター整備を年度末にかけて実施するものである。また、長期貸付金52,200千円は、24年度から看護師確保対策として当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行っている。

(オ) 経費削減及び効率化目標との関係

- ・当機構では、中期計画において委託費及び材料費の対医業収益比率低減を目標設定しており、数値目標の実現のため、委託費の削減手法として①委託契約の複数年化、②3病院に係る契約の一本化、③業務の包括化また、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止等に取り組んでいる。
- ・平成24年度の委託費については、対医業収益比率が10.4%となり、中期計画目標より1.2ポイント改善の見込みである。材料費については、対医業収益比率が29.9%となり、中期計画目標より0.1ポイント増加する見込みであるため、年度後半の状況を注視していく。

<中期計画目標：委託費対医業収益比率>（税込）

（単位：千円）

中期計画	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,591,588	26,378,983	27,263,037	27,803,383	28,487,144
委託費	3,253,817	3,243,530	3,233,449	3,233,449	3,233,449	
比率	12.7%	12.3%	11.9%	11.6%	11.4%	
実績	区分	H21	H22	H23	H24(見込)	H25
	医業収益	25,176,541	28,437,485	28,917,782	29,722,887	
委託費	2,732,999	3,020,151	3,106,827	3,083,429		
比率	10.9%	10.6%	10.7%	10.4%		

【H24.9月末までの実績による年間見込み】

<中期計画目標：材料費対医業収益比率>（税込）

（単位：千円）

中期計画	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,591,588	26,378,983	27,263,037	27,803,383	28,487,144
材料費	8,357,340	8,310,998	8,339,746	8,276,137	8,268,962	
比率	32.7%	31.5%	30.6%	29.8%	29.0%	
実績	区分	H21	H22	H23	H24(見込)	H25
	医業収益	25,176,541	28,437,485	28,917,782	29,722,887	
材料費	7,930,108	8,323,247	8,205,342	8,873,374		
比率	31.5%	29.3%	28.4%	29.9%		

【H24.9月末までの実績による年間見込み】

(カ) 決算指標 <3病院計> (税込) 【H24.9月末までの実績による年間見込み】

区 分	項 目	H24 見込 a	H23 実績 b	増 減 a-b
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	103.9	106.7	▲2.8
	医業収支比率 (%)	84.3	86.2	▲1.9
	実質収益対経常費用比率 (%)	83.8	85.6	▲1.8
収 入 構 造	病床利用率 (%) 【許可病床】	74.1	73.9	0.2
	入院患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	60,648	58,874	1,774
	外来患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	15,100	14,781	319
費 用 構 造	職員給与比率 (%)	58.4	57.7	0.7
	材料費比率 (%)	29.9	28.4	1.5

※患者 1 人 1 日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床利用率は、3病院の許可病床数で算定。

- ・ 収支構造の各指標は、経常収支比率が中期計画の数値目標である 100%を上回る 103.9%が見込まれるが、前年比 2.8 ポイントの減となるほか、運営費負担金を除いた営業成績を示す医業収支比率、実質収益対経常費用比率ともに前年度を下回ることが見込まれるが、少しでも減少幅が圧縮できるよう下半期に努力していく。
- ・ 収入構造では、昨年度からの好調を継続しており、平成 24 年の診療報酬改定も微増のプラス改定となったことから、入院患者 1 人 1 日当たり単価は前年比 1,774 円の単価アップとなり、外来患者 1 人 1 日当たり単価も前年比 319 円の単価アップとなる見込みである。
- ・ 費用構造では、職員給与比率が人員増や委託から直接雇用への変更等の影響で前年比 0.7 ポイント増、材料費比率が総合病院の高額な薬剤使用量の増加による薬品費の増加等の影響で前年比 1.5 ポイント増となり、前年度よりも増加傾向となる見込みである。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として 100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。
- ・ 実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{運営費負担金}) \div \text{経常費用} \times 100$
経常費用が経常収益から運営費負担金を引いた実質収益によって、どの程度賄われているかを示す指標で、100%に近いほど望ましい。

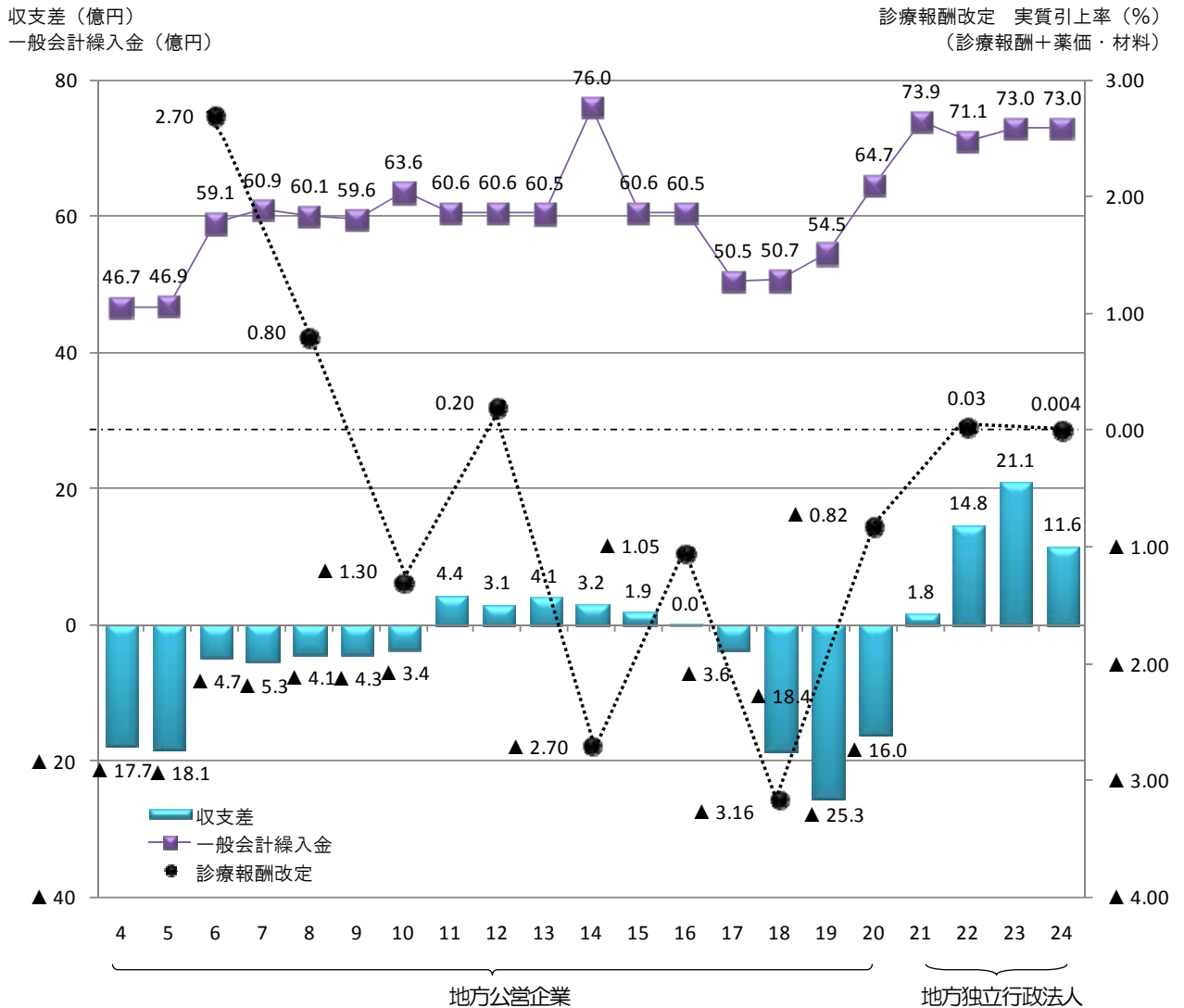
【収入構造】

- ・ 病床利用率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (許可病床} \times \text{暦日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者 1 人 1 日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と 1 人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
 病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
 この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(キ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



※H24 は見込

- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げの一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。

(ク) 職員の状況 (毎月初め人数累計÷6か月) (H24.4～H24.9平均)

① 正規職員

(単位：人)

区 分	総 合	こころ	こども	本 部	計
医 師	118	13	87	-	218
歯 科 医 師	2	-	1	-	3
看 護 師	638	113	405	1	1,157
看 護 師	633	109	404	1	1,147
准看護師	5	4	1	-	10
医 療 技 術	169	24	76	1	270
事 務	34	13	29	25	101
技 能 労 務	-	-	-	-	-
計	961	163	598	27	1,749

② 有期職員

(単位：人)

区 分	総 合	こころ	こども	本 部	計
医 師	73	2	43	-	118
初期研修医	26	-	-	-	26
その他医師	47	2	43	-	92
看 護 師	45	12	13	-	70
看 護 師	44	11	12	-	67
准看護師	1	1	1	-	3
医 療 技 術	28	3	15	-	46
事 務	(12)43	7	(33)46	7	(45)103
補 助 職 員	70	12	22	1	105
計	259	36	139	8	442

※1 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※2 短期間特別研修医は含まない。

※3 事務の()内は、病棟事務補助(クラーク)、医師事務補助の委託からの振替分で内数。

(ケ) 平成25年度職員の採用状況 (H24採用試験(定時募集)実施状況) (H24.9末現在)

- ・ ホームページにおける試験概要(受験資格や試験日程など)の掲載を受験案内の公開に先駆けて行い、採用試験実施の周知に努めている。
- ・ 看護師及び事務職員の採用試験については、学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加回数や就職情報サイトへの情報掲載先を増やすなど試験広報の拡充を行った。なお、看護師については、掲示用ポスターを作成し、静岡市内の電車・バスの中吊り広告を実施した。
- ・ 看護師の採用については、あらかじめ4期までの定期試験日程を公表し、現在までのところ2期まで実施している。現在までの応募者数(23年度：101人、24年度：108人)、採用内定の応募数(23年度：77人、24年度：89人)ともに昨年より上回っているが、依然として充足には至っていないため、引き続き看護師確保に努めていく必要がある。
- ・ 事務職員の採用については、エントリーシートの提出に併せ簡易面談による事前審査を実施し、より人間性を重視した採用選考を行い、定時募集において必要数を確保したが、その後1年度中途退職者等が発生したことから、現在、追加募集を実施している。
- ・ 事務職員の採用では、経験者募集を3業務(診療情報管理、医事、物流管理)について行い、診療情報管理に1人の応募があったが、合格基準に達しなかったため採用に至らなかった。なお、医事及び物流管理には応募者がなかった。

- ・医療技術の採用については、11職種（薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーほか）について定時募集を行った。なお、2職種で採用内定の辞退、1職種で必要数の増があったが、補欠合格者に対する採用内定により必要数を確保した。

(単位：人)

区 分	機 構 全 体 (採用内定者数)			H25 採用	
	H24【H25採用】	H23【H24採用】	増減数	募集人数	過不足
看 護 師	89	98	▲9	160	▲71
事 務	6	8	▲2	11	▲5
医 療 技 術	26	26	—	18	+8

・H24採用の欄は、H23試験実施によるすべての採用人数（前倒し採用（看護師7、医療技術1）を含む）。

・医療技術は、募集後に必要数が増となったため、採用内定者数が募集人数を上回っている。

平成24年度 職員数の推移 (9月末現在)

(単位：人)

区 分	H24.4.1 現員数 a	H24年度中 採用者数 b	H24年度中 退職者数 c	H24.9.30 現員数 d=a+b-c	備 考
	医 師				
正 規	219	9	7	221	
有 期	117	3	3	117	
計	336	12	10	338	
看 護 師	1,164	0	18	1,146	
医 療 技 術	270	0	1	269	
事 務	101	0	0	101	
(うちプロパー)	(38)	0	0	(38)	
計	1,871	12	29	1,854	

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む。

※有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く。

実働数の推移

(単位：人)

区 分	平成24年4月1日現在			平成24年10月1日現在		
	必要数 a	実働数 b	過不足 b-a	必要数 a	実働数 b	過不足 b-a
医師(正規)	239	216	▲23	239	220	▲19
看 護 師	1,104	1,094	▲10	1,104	1,080	▲24
医 療 技 術	266	261	▲5	266	261	▲5
事 務	101	101	0	101	101	0
計	1,710	1,672	▲38	1,710	1,662	▲48

※実働数=現員数-休職者数

ウ 特記事項

(ア) 経営改善

- ・薬品費や診療材料費については、購入品目の見直し、納入業者数の絞込み、価格交渉の更なる拡充等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んでいる。
- ・委託費については、3病院一括化、複数年契約化、同種業務の包括化など、委託業務契約の見直効果の継続及び更なる改善に努め、地方独立行政法人制度のメリットを活かした経営改善を推進している。

- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約延長：最長5年間の業務受託が可能）の付与や業務内容が適切ではない場合の契約解除等が課せられている。）の導入などにより、業務の質の向上も図っている。

※（ ）は23年度実績のNo

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (薬品費の節減)	【実績】 ・一薬品メーカー・一卸業者制度 ・納入卸業者数の絞り込みによる事務効率化及び 値引き率の向上	83 (82)
	【課題】 ・購入から消費までの業務の効率化と業務フロー の整備 ・ジェネリック医薬品の導入促進	
コスト節減への取組を強化する (診療材料費の節減)	【実績】 ・医療従事者と協働した同種同効品の絞込み、3 病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切 替等	83 (82)
	【課題】 ・購入から消費までの業務の効率化（業務フロー の精査） ・診療材料の品目数の適正管理	
コスト節減への取組を強化する (医療機器購入・保守管理業務の改善)	【実績】 ・保守管理委託の3病院一括化・複数年化・同種 業務の包括化による保守管理費の節減	84 (83)
	【課題】 ・機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る検 討	
コスト節減への取組を強化する (委託料等の契約形態による業務改善)	【実績】 ・3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化に よる委託料の節減効果の継続及び更なる改善 ・モニタリング制度による業務の質の向上	85 (84)
	【課題】 ・消費税増への対応の検討	
・情報の受け手を意識したわかりやす い情報発信体制の整備 (説明責任・透明性の確保) ・経営情報の積極的な活用による効率 的な運営 (原価計算への取組)	【実績】 ・総合病院において原価計算システムの稼働に向 けて検証中	40・87 (86)
	【課題】 ・医師のタイムスタディ等費用配賦のための基礎 資料の収集	

(イ) 環境改善

- ・ 医療従事者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。
- ・ 業務改善の推進として、各病院が各々行っていた表彰制度を統合し、機構の改革推進制度として新たに設置し、改革・改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。
- ・ 看護師確保の一環として、多様な勤務形態のひとつである看護師の2交代制勤務の制度化について労働組合と合意し、平成23年8月から総合病院において、平成24年4月からこども病院において2交代勤務を開始した。また、こころの医療センターにおいても、平成24年9月から試行を開始した。
- ・ 有期雇用職員（県の場合、非常勤職員）については、正規職員と同様のフルタイム雇用も可能とし、業務量及び施設基準に必要な職員の確保、働く人のニーズへの対応等について弾力的に運用している。
- ・ 多忙化する医師を支援するため、医療秘書49人（医師事務作業補助者）の配置（H25.1月末現在）を行い、医師の業務負担の軽減を図っている。なお、看護師支援のため平成21年度より配置していた病棟支援員については、看護助手と同様の業務を行っていることから、平成24年度より看護助手に一本化して管理するものとした。
- ・ 看護師確保の一環として、当機構への就職を希望する看護学生に対して養成校修学資金の貸与を行う制度を創設した。これにより一定の看護師が就職することが期待される。

※（ ）は23年度実績のNo

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表NO
医師・看護師その他医療従事者の確保対策の充実を図る (研修体系プログラムの整備)	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・階層別研修（新規採用、新規役付、新任監督者、管理者） ・専門研修（コーチング、コミュニケーション※、プレゼンテーション、メンタルサポート※） ・事務職員研修※（基礎研修、医療事務基礎、総務事務、決算事務） ※新規実施	75
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の拡充 ・本部と各病院の役割分担、研修内容の調整 ・事務職員については、事務職としての基礎知識と病院事務職としての専門性向上 	
医師・看護師その他医療従事者の確保対策の充実を図る (看護師修学資金制度の創設)	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から新たに制度を運用し、修学生のうち31名が採用試験を経て採用内定 	76 (H24から新規追加)
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・より効率的で効果的な制度周知 ・養成校の新入生（進学する高校生）をターゲットにしたPR 	

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
高度医療を支える医療従事者の専門能力の向上を図る一環として、認定資格等の取得奨励を推進する体制の整備を図る (認定看護師等の資格取得を支援(医療の質の向上))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師育成状況 (H24.9月末現在累計) 総合13名、こころ7名、こども8名 メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化 	44 77~79 (76~78)
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 資格取得者の評価及び活用方法の検討 メディカルスキルアップセンターの利用促進 	
プロパー職員(事務部門)の確保 (業務マニュアルの作成)	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> 事務部門の業務マニュアル整備 院内コミュニケーションシステムへの公開(共有化) 3病院業務別担当者連絡会(研修会)の開催 	89
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 3病院担当者連絡会や集約したマニュアルを活用した病院間業務の平準化 	
職員による経営・業務改善の提案を奨励する制度を充実し、提案が反映される制度の整備を図る (業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成(改革・改善推進制度の創設))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> 業務改善提案の活性化 表彰による業務改善の推進 	90
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 業務改善意識のさらなる高揚 改革改善提案の普及 	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (多様な雇用形態や勤務形態への取組(就労環境の向上))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態の採用 県立総合病院、県立こども病院における看護師2交代勤務制の開始など柔軟な勤務形態導入への取組み 	91
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 職員が働き続けることができるような、更なる多様な勤務形態の整備 	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (医師の事務負担軽減のための「医療秘書」の配置(多忙化解消・質の向上))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> 医師の時間外勤務の削減等(多忙化解消) 医療の質の向上(患者と接する時間の確保等) 医療秘書49人(43.57人工)配置 (総合30人(29.07人工),こころ1人(1.00人工),こども18人(13.50人工)) H25.1月末 	93
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> 人材の育成(医療に熟知した人材が必要) 	

計画実施のための手段	取組概要	実績表NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (看護師の業務負担軽減のための「病棟支援員」の配置(多忙化解消))	【実績】 ・看護師不足に対応するため、看護師充足まで支援員を配置 ・病棟支援員については平成 24 年度より看護助手として管理し、看護師業務の軽減に寄与。 ・看護助手 83 人配置 (総合 54、こころ 9、こども 20) H24.9 月末	93
	【課題】 ・費用対効果の検証	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (医師・看護師確保のための宿舎・院内保育所の整備)	【実績】 ・こども病院医師宿舎の建設 (平成 24 年 3 月完成) ・総合病院院内保育所の建設 (平成 24 年 3 月完成)	92
	【課題】 ・こども病院の老朽化した医師宿舎の取扱い ・こども病院の保育所のあり方	

(ウ) 災害等における医療救護

①東日本大震災への対応状況

- 東日本大震災 (平成 23 年 3 月) への医療救護活動として、岩手県宮古市などへの県立総合病院の DMAT 派遣及び静岡県医療救護班派遣 (一般医療チーム及び精神医療チーム) 等による被災地支援は平成 24 年 3 月末で派遣を終了した。

②東海地震に備えた今後の対応

- 各病院で災害対応マニュアルの見直しを進めているところであり、東日本大震災を教訓とした想定内容をマニュアルに反映させていくとともに、避難訓練の実施方法や設備面での見直しも検討している。
- 県や静岡市では、現在各々の防災計画の見直しを行っているところであり、各病院が地域防災における役割を的確に果たせるよう、上位計画の見直しに合わせて機構の計画見直しを行い、体制整備を図る。
- 医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める (航空機による搬送計画等検討)。
- 被ばく医療については、福島第一原発相当の事故に対応する体制・医療計画の見直しについて県をはじめ関係機関と協議する。

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

ア 総 括

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

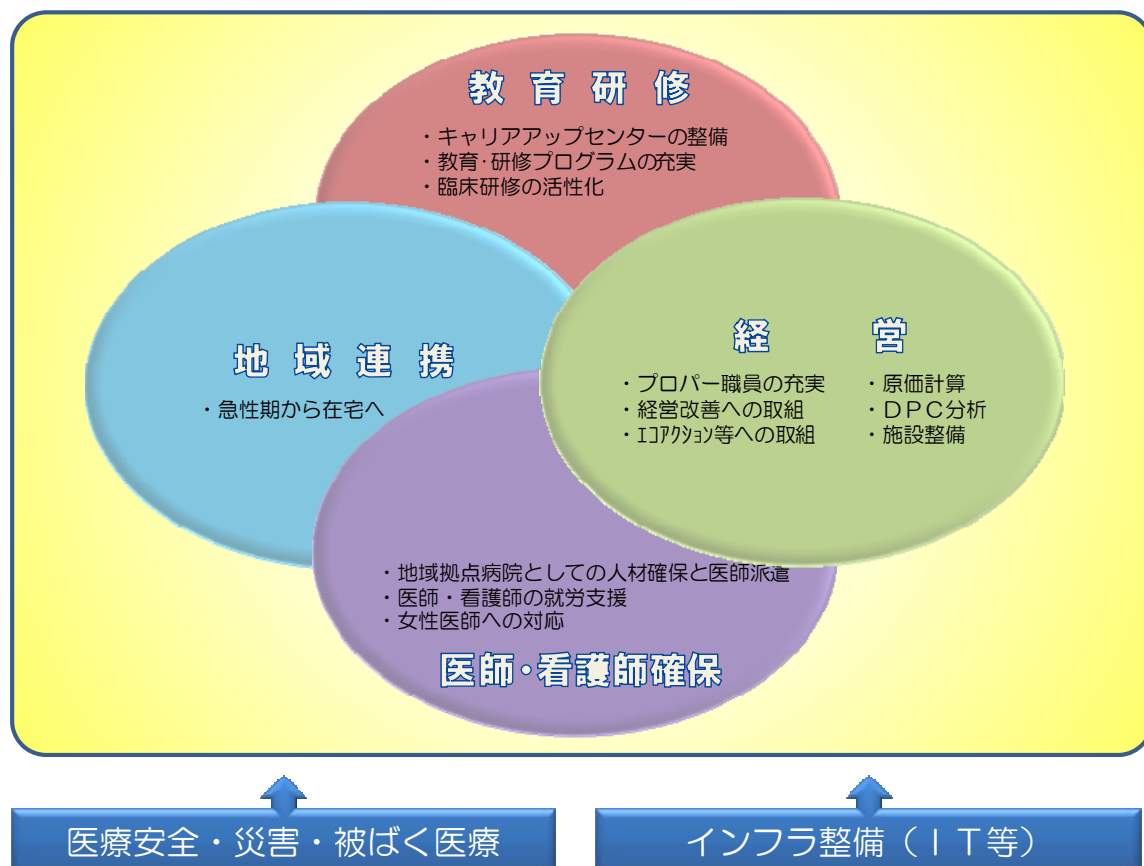
平成24年度も引き続き、主要事業として、循環器病センター機能を活かした24時間365日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供及び高度救命救急センターを目指した救急医療体制の段階的な整備を三本柱として取り組んでいる。

また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めている。

平成22年4月及び平成24年4月の診療報酬増額改定の効果を持続させるべく、施設基準の積極的な取得及び維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、診療単価を維持している。必要看護師数を確保できない状況の中で、延期していた3A病棟（HCU）の開棟が実現し、入院延患者数は年度計画を下回ったものの、外来延患者数、収入は年度計画を上回る見込みである。

今後、県立総合病院が目指す病院像（次頁(図1)参照）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院は計画を下回り、外来は計画を上回る見込みである。単価については、入院・外来とも計画を上回る見込みである。この結果、年間の収入は計画額を確保する見込みである。入院延患者数が計画を下回ったのは、全国的な傾向で景気の影響と思われるが、延期していた12床のハイケアユニット（HCU）の開設を実現できたこと、診療報酬改定がプラスであったこと、診療内容が高度化したこと及び外来患者数が増加したことで、入院延患者数減少をカバーし、計画した収入を確保する見込みである。

平成24年度 業務実績 【H24.9月末までの実績による年間見込み】

区分		年度計画	実績見込み	増減	達成率(%)
入院 病床	年間入院延患者数 (人)	207,509	204,341	▲3,168	98.5
	患者1人1日当たり単価 (円)	61,124	63,822	2,698	104.4
	平均在院日数 (日)	12.3	12.4	0.1	99.2
	病床利用率 (%)	91.7	90.3	▲1.4	98.5
結核 病床	年間入院延患者数 (人)	9,100	7,342	▲1,758	80.7
	患者1人1日当たり単価 (円)	22,554	25,419	2,865	112.7
	平均在院日数 (日)		68.9		
	病床利用率 (%)	24.9	20.1	▲4.8	80.7
外来	年間外来延患者数 (人)	392,938	406,950	14,012	103.6
	患者1人1日当たり単価 (円)	15,978	16,598	620	103.9

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床620床、結核100床で算定。

- ・ 紹介率、逆紹介率については、ともに過去最高の水準を実現し、病診・病病連携がいつそう進んでいる。

平成 24 年度 紹介率・逆紹介率 【H24.9 月末までの実績による年間見込み】 (単位：%)

区 分	年度計画	実績見込み (H23)	増 減(対H23)
紹 介 率	80.0	80.9(81.5)	0.9(▲ 0.6)
逆 紹 介 率	90.0	112.6(105.1)	22.6 (7.5)

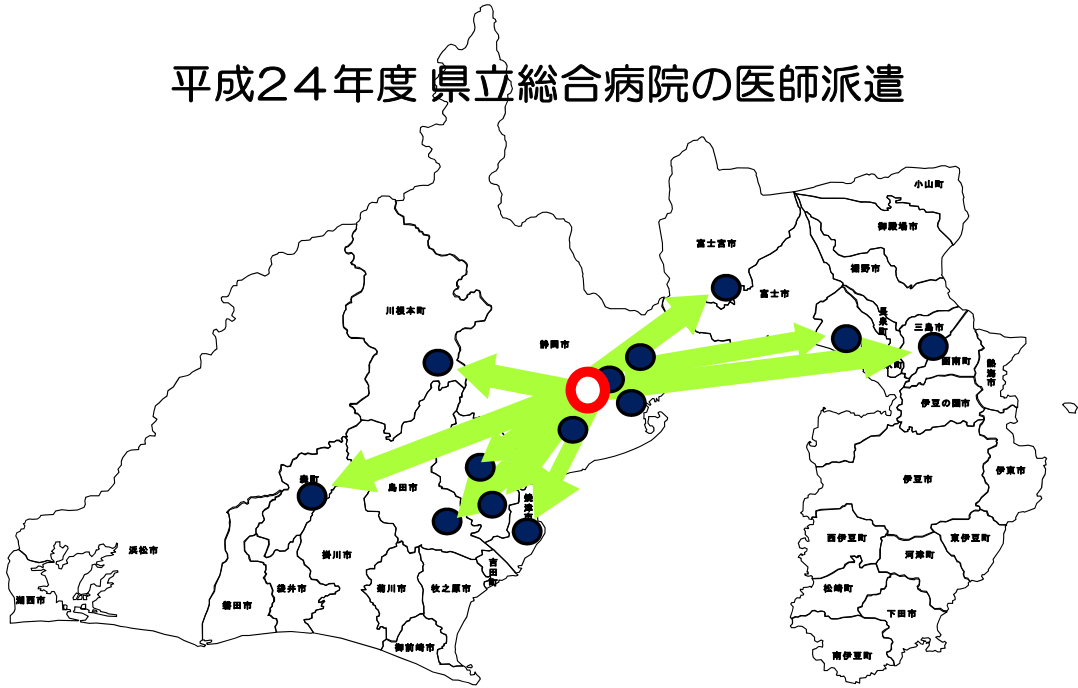
※紹介率・逆紹介率の算定方法は、P67 の用語解説を参照。

ウ 特記事項

(ア) 医 療

- ・ 医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の 3 本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成 24 年 3 月の厚生労働省告示により、全国 1,505 の DPC 病院（急性期病院）の中で全国 90 病院のⅡ群の一つとなり、大学病院本院（Ⅰ群）と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて 5 病院）。
- ・ 循環器病については、14 床の CCU/ICU を 24 時間体制で運用し、その利用率は 92.6%となっている。平成 21 年度に再開した不整脈外来・カテーテルによる不整脈治療や脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用しており、医師の増員は実現していないものの循環器病センターの機能充実に努めている。
- ・ がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実に目指してリニアックを 1 台増設し、稼働している。また、平成 22 年度に内視鏡室の改修工事が完了し検査・治療環境が改善している。このほか、地域の医療者にも開かれたがんセンターボード及びがん研修会を定期的開催し、PET センターの共同利用を進めるなど、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。平成 24 年 3 月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録 2009 年全国集計報告書」において、当院の登録件数 2,330 件は全国 377 施設で 32 番目に多い登録件数であった。
- ・ 救急医療については、医師の変則勤務の試行、曜日別当番医師を定めるなど、循環器病センターの機能充実に相俟って救急医療体制の充実に努めている。東日本大震災の対応における課題を受け、平成 24 年 3 月に厚生労働省医政局長から「災害時における医療体制の充実強化について」の通知がされ、基幹災害拠点病院は救命救急センターであることが要件となり、救命救急センターの設置が課題となった。その要件である複数の救急科専門医の確保の見通しが立ったため、救命救急センター指定を目指し、救急 HCU 等の施設改修及び機器整備に取り組んでいる。
- ・ 地域医療の支援については、平成 24 年度上期は、13 医療機関(前年同期 10)に対して延べ 386 人(前年同期 439 人)の医師の派遣を行うとともに、PET や CT・MRI の高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成 22 年度総務省委託事業である「地域 ICT 利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、9 月末現在、開示病院は 7 病院、参照機関は 91 施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成24年度 県立総合病院の医師派遣



- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成23年度に卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が高く評価され、認定証の発行を受けた。また、医師臨床研修マッチングにおいて、募集定員17名中16名を内定することができた。残る1名は追加募集中である。

※（ ）は23年度実績のNo

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
循環器病センター機能を生かすべく、循環器疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る (循環器病センターの運営(施設稼働率の向上))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ CCU/ICU の 24 時間 365 日の運用維持 ・ MRI、CT、心カテ、IVR の活用 ・ メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化 	1～3・79(78)
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度医療機器の活用推進 ・ 医師の確保 ・ メディカルスキルアップセンターの利用促進 	
がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る (がん医療の推進(地域がん拠点病院の機能))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす(主要がん手術、放射線治療、外来化学療法、緩和ケア、がん相談、がん登録) ・ PET イメージングセンターの運営(がんの病期診断精度等の向上、PET 検診提携) 	4～6・52
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保 ・ がん相談窓口の充実 	

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
重篤な救急患者に対して高度救命救急センターを目指した機能の段階的な整備を図る (救急医療への取組み(救急の体制))	【実績】 ・救急車搬送患者の受入体制の確保 ・当直体制、当番体制の整備 ・医師の変則勤務の試行 ・救命救急センター設置の取組	7・8
	【課題】 ・医師の負担軽減 ・救急専門医の確保	
地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る (地域医療支援への取組み(地域医療支援病院の機能))	【実績】 ・紹介率 80%以上、逆紹介率 90%以上 ・高度医療機器の共同利用 ・葵カード発行	51・52
	【課題】 ・PET 検診の提携拡大	

循環器病センター



救急処置室 (1F)



心カテ室 (2F)



CCU (3F)

(イ) 経営改善

- ・ 必要看護師数が確保できない状況の中、延期していたハイケアユニット (HCU) を平成 24 年 7 月 1 日に開設した。引き続き、医療秘書や病棟支援員の配置、看護師の離職防止対策などに取り組み、一般病棟 7 対 1 看護の維持に努めている。
- ・ エコアクション 21 の取組み、業務委託等の見直しを行うなど、医業費用の縮減に努めている。

※ () は 23 年度実績の No

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得(診療報酬の確保))	【実績】 ・ 7 対 1 看護維持等 ・ 新規に取得した施設基準の数 30 件(ランクアップ 1 件含む) ・ 高度専門医療の提供 ・ 年度計画収支の改善	82 (81)
	【課題】 ・ 施設基準の維持・拡大 ・ 院内に専門的知識を持った職員を養成 ・ 事務プロパー職員の専門性を高めていくための人材育成計画等を整備していく必要がある。	
エコアクション 21 認証取得後の取組み (省エネの推進)	【実績】 ・ 内部監査実施 ・ 光熱水費の削減 ・ エコパトロールの実施	—

エコ・マイ・ホスピタル

「環境と人にやさしい」わたしの県立総合病院

〈環境方針〉

○基本理念

静岡県立総合病院職員は、医療が環境に多大な影響を及ぼすことを認識し、「環境と人にやさしい病院」を目指し、力を結集して環境保全に取り組みます。

○基本方針

1. 地球温暖化防止のため省資源・省エネルギーを実行し、温室効果ガスの排出量を削減します。
2. 水資源を大切にし、水の使用量を削減します。
3. 廃棄物のリデュース(発生抑制)、リユース・リサイクルの3R活動を推進し、廃棄物を削減します。
また、積極的なグリーン購入を進めます。
4. 感染性廃棄物とその他廃棄物の分別の徹底と適正使用を図ります。
5. 医薬品・検査試薬、診療材料、医療機器の適正使用と安全管理に努めます。
6. 環境関連法規等を遵守し、環境保全に努めます。
7. 環境教育・啓発活動を実施し、環境へのいつくしみと人へのやさしさを育みます。

(ウ) 環境改善

- ・ 院内保育所を整備するなど就労環境の向上を図っている。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	【実績】 ・看護師 2 交代勤務を H23. 8 月から 2 病棟 (4 A、6 C) で制度化した。 ・院内保育所を整備した。(定員 55 人→100 人) ・医療秘書 (一部医師事務作業補助者を含む) を 30 人 (29. 07 人工) 配置し、医師の負担軽減を図った。H25. 1 月末現在	91～93
	【課題】 ・ 2 交代勤務実施病棟の拡大	

- ・ 職員及び来院者のアメニティの向上のために施設整備を進めている。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
職員の就労環境の改善、向上を図る。	【実績】 ・外来食堂及び売店がオープンし、H23 からの外来改修工事も完成した。 ・イートインスペースを新たに 2 ヶ所設置した。	95
	【課題】 ・ 北館 6 階職員エリアの整備	

院内保育所 (H24. 4. 1 オープン)



アメニティ棟【レストラン】 (H24. 4. 1 オープン)



売店 (H24. 8. 1 オープン)



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

ア 総 括

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「先進医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想(図2)参照）に取り組んでいる。

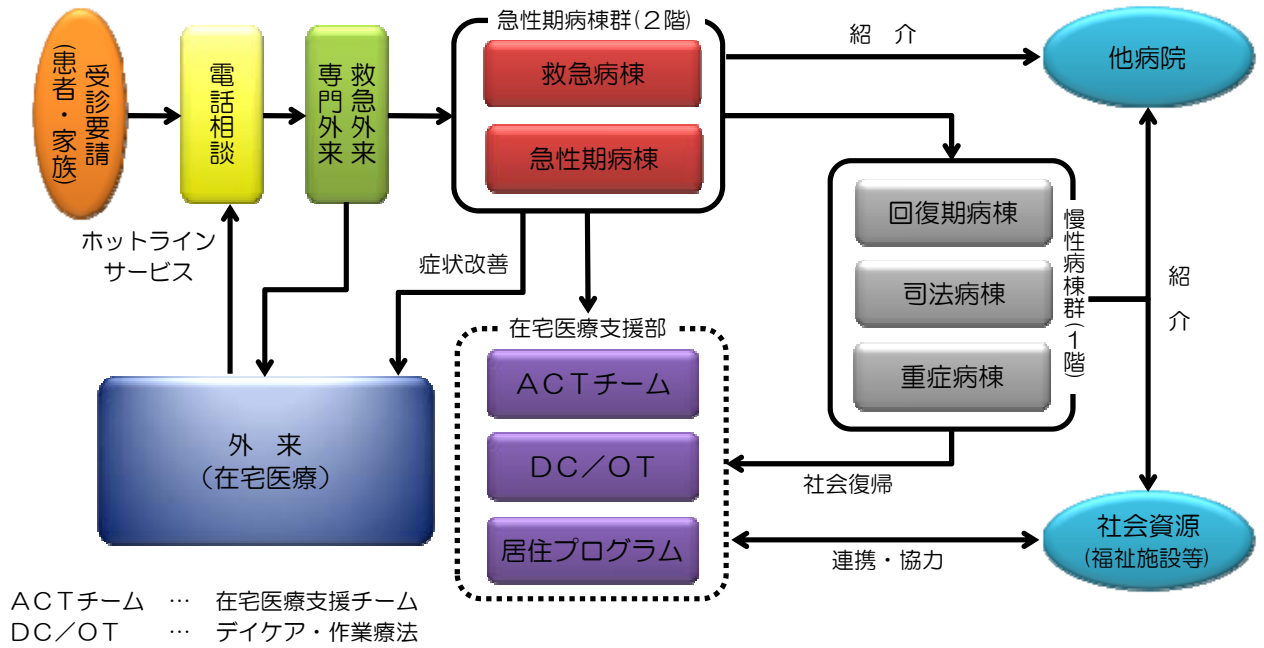
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

合わせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療への取り組みを強化している。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、先進的医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想 (図2)



イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数、入院単価、平均在院日数、病床利用率ともにはほぼ計画どおりに進捗している。
- ・ 外来延患者数は、計画には届かないが、外来単価については、計画を上回る見込みである。

平成24年度 業務実績 【H24.9月末までの実績による年間見込み】

区分		年度計画	実績見込み	増減	達成率(%)
入院	年間入院延患者数(人)	57,991	58,691	700	101.2
	入院患者1人1日当たり単価(円)	22,060	22,273	213	101.0
	平均在院日数(日)	100.0	100.0	0.0	100.0
	稼働病床利用率(%)	88.3	89.3	1.0	101.1
外来	年間外来延患者数(人)	42,687	37,850	▲4,837	88.7
	外来患者1人1日当たり単価(円)	5,865	6,035	170	102.9

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床利用率は、180床で算定。

- ・ 紹介率は、地域医療機関との連携、予約制の浸透等により、計画値を上回っているものの、逆紹介率は、計画値を下回る見込みである。

平成24年度 紹介率・逆紹介率 【H24.9月末までの実績による年間見込み】 (単位: %)

区分	年度計画	実績見込み(H23)	増減(対H23)
紹介率	54.0	65.2 (67.1)	11.2 (▲1.9)
逆紹介率	34.0	29.3 (48.3)	▲4.7 (▲19.0)

ウ 特記事項

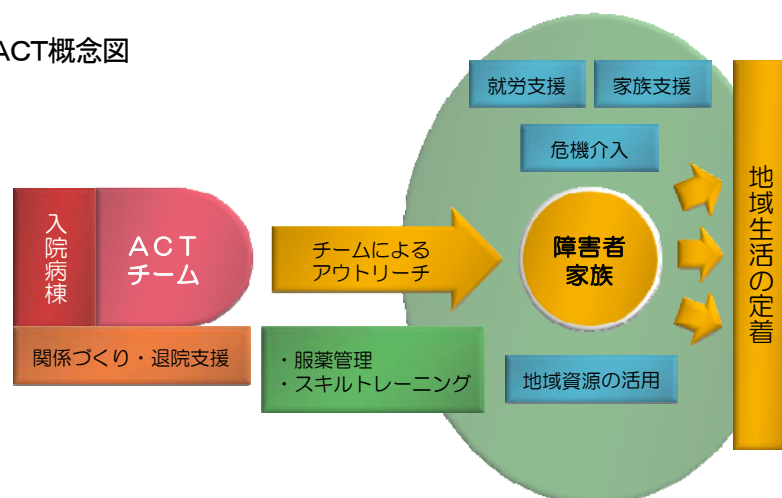
(ア) 医 療

- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- 地域医療の支援については、県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設するなど、24 時間体制で救急相談に対応しているほか、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣などに取り組んでいる。
- 先端薬物療法（クロザピン）や先進的な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んでいる。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に関する取り組みを強化・拡大している。
- 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めている。
- 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実に努め、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急・急性期医療の提供体制の整備)	【実績】 ・精神科救急、急性期医療に特化した診療体制への整備 ・在宅医療支援体制の強化	9・10
	【課題】 ・長期在院患者の退院促進と在宅医療支援の強化 ・新規患者比率を高める ・新規患者の 90 日以内の退院率を高める	
24 時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が 90 日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急医療相談体制の整備(電話相談部門のワンストップサービス))	【実績】 ・県内全域を対象とし、24 時間体制で救急医療相談に対応	11・54
	【課題】 ・相談件数を増加させるため、精神科救急ダイヤルの一層の周知	

計画実施のための手段	取組概要	実績表NO
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (先端薬物療法等(クロザピン、m-ECT)を積極的に実施する)	【実績】 ・クロザピンによる治療の実施 ・m-ECT (修正型電気けいれん療法) の実施	12・13
	【課題】 ・クロザピンによる副作用に対する安全対策の徹底 ・m-ECT の安定した実施に向けての麻酔医の確保	
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (心理・社会的治療についての実施体制を強化・拡大する)	【実績】 ・患者に対する心理教育・家族教室への取組を実施	14
	【課題】 ・心理教育・家族教室の実践に対する診療報酬算定方法の検討	
多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築し、継続実施する (ACTの構築)	【実績】 ・ガイドラインに沿ったACTによる支援の実施	15
	【課題】 ・地域支援を行うための収入の確保	
医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与	【実績】 ・医療観察法指定入院医療機関としての適正運用と機能拡充に適したプログラムの提供	16
	【課題】 ・スタッフの一層のレベルアップ	
機構内3病院における連携体制 (精神身体合併症への対応:総合病院との連携体制)	【実績】 ・総合病院内科医、皮膚科医等による往診 ・総合病院緩和医療チームへの支援 ・緊急時の搬送体制の確立 ・こども病院精神科の入院治療への支援	31
	【課題】 ・病院間横断的な検討の実施	

ACT概念図



(イ) 経営改善

- ・ 診療報酬の適正請求や医療観察法の指定病床の増床など、収益の増収に努めている。

※ () は 23 年度実績の No

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【実績】 ・ 診療報酬の適正請求に努めるとともに、施設基準維持のための病床調整を実施	16・82 (81)
	【課題】 ・ 施設基準の維持・拡大 ・ 救急性期医療等の拡大(算定外患者を減らす、病床利用率の向上)	
遊休施設等の有効活用を図る	【実績】 ・ 北3 及び南3 病棟の個室を2 部屋ずつ計4 部屋確保し、夜勤職員用の休憩室として活用 ・ 男性看護師の増加に伴い、南3 病棟に男性用の休憩室を設置	—
	【課題】 ・ 北3 及び南3 病棟のその他空きスペースの活用法の検討 ・ グラウンド等の遊休施設の活用法の検討	

(ウ) 環境改善

- ・ 北2 病棟及び南2 病棟への一部2 交代制勤務の導入に伴い、夜勤職員用の休憩室を、3 階フロアに4 部屋(男女別に2 部屋ずつ) 確保した。
- ・ 男性看護師の増加に伴い、男性用の休憩室を3 階フロアに増設した。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
就労環境の改善	【実績】 ・ 夜勤職員用の休憩室を4 部屋確保 ・ 男性看護師用の休憩室を1 部屋増設	95

病棟から独立した夜勤職員用休憩室 (4 部屋)



男性看護師用の休憩室 (1 部屋)



(4) こども病院

<理 念>

「すべての子どもと家族のために、安心、信頼、満足の得られる医療を行います。」

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



ア 総 括

こども病院は、県内小児医療の中核病院として、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。平成22年度に、職員公募により病院理念を改定し、病院の目指す医療について職員の意識統一を図った。

平成24年度上期は、外来延患者数、入院延患者数とも前年度同期に比べ増加している。

診療収入としては、外来収入が若干減少し、入院収入がこちらの診療科において診療報酬改定に伴う増収になっていること等により、年間を通じては、前年度並みとなる見込みである。

外来診療部門において、設備の老朽化（空調機や受電設備等）や診療需要の増大、不足している機能があることから、今後外来棟の増築、既存外来の改修を実施する計画について検討中である。

イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、脳神経外科、こころの診療科で患者数が増える見込みであり、計画を上回る見込みである。また、外来延患者数は、循環器科、救急総合診療科他で患者数が増加する見込みであり、計画を上回る見込みである。
- ・ 一般病床の入院単価、外来単価については、計画額を下回るものの、精神科病床は大幅な増額となる見込みである。

平成 24 年度 業務実績 【H24.9 月末までの実績による年間見込み】

区 分		年度計画	実績見込み	増 減	達成率(%)	
一 般	入 院	年間入院延患者数 (人)	67,560	66,037	▲1,523	97.7
		患者1人1日当たり単価 (円)	97,071	93,776	▲3,295	96.6
		平均在院日数 (日)		10.4		
		病床利用率 (%)	76.2	74.5	▲1.7	97.8
	外 来	年間外来延患者数 (人)	81,579	86,389	4,810	105.9
		患者1人1日当たり単価 (円)	14,108	13,210	▲898	93.6
精 神	入 院	年間入院延患者数 (人)	6,739	9,300	2,561	138.0
		患者1人1日当たり単価 (円)	16,745	25,651	8,906	153.2
		平均在院日数 (日)		178.7		
		病床利用率 (%)	51.3	70.8	19.5	138.0
	外 来	年間外来延患者数 (人)	11,257	11,416	159	101.4
		患者1人1日当たり単価 (円)	5,958	6,044	86	101.4

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。一般の平均在院日数は、NICU、GCU、MFICUを除いて算定。病床利用率は、一般243床、精神36床で算定。

- ・ 紹介率、逆紹介率ともに計画値を上回る見込みである。今後も紹介数増加に向け、受け入れ体制の充実など広報活動を行っていく。

平成 24 年度 紹介率・逆紹介率 【H24.9 月末までの実績による年間見込み】 (単位：%)

区 分	年度計画	実績見込み (H23)	増 減 (対H23)
紹 介 率	90.0	99.5 (99.7)	9.5 (▲0.2)
逆 紹 介 率	32.0	34.2 (34.2)	2.2 (0.0)

ウ 特記事項

(ア) 医 療

- ・ カテーテル治療（アンプラッツァー）など新しい治療方法の導入や、小児循環器集中治療医の育成のための研修プログラムの実施、一般電話回線を利用した遠隔エコー診断など、高度先進的治療の提供体制の整備に努めている。
- ・ 増床（3床）されたNICU（新生児集中治療室）の本格稼働、新生児未熟児科医の増員募集、妊娠管理から治療までのシステム構築の一環として県内の医師看護師に対する講習会の開催など、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度な先進的治療の提供に努めている。

- ・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画しネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、児童精神科分野における中核的機能の発揮に取り組んでいる。
- ・救急総合診療科、PICU（小児集中治療科）を中心に小児救急医療への対応を強化するほか、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を開催するなど、24時間365日を通して、重篤な小児救急患者の受け入れ体制の維持・強化に努めている。
- ・静岡県小児がん拠点病院として、関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催し、小児がんの高度な集学的治療へ積極的に取り組んでいる。
また、本年度制度化された国の小児がん拠点病院の指定を厚生労働省に申請した。
- ・地域医療の支援については、平成24年度上期は7医療機関(前年同期6)に対して、延べ404人(前年同期352人)の医師を派遣したほか、地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修の受け入れ、講演会やセミナーの開催などに取り組んでいる。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な先進的治療を提供する体制を整備する (小児重症心疾患患者への先進的治療の提供(体制整備、専門医等の育成))	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器集中治療科の維持継続 ・小児循環器疾患治療スタッフの教育研修の充実 ・心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ・高度な小児心臓手術の実施 	18
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・医師（集中治療医）の確保 	
地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに新生児に対して高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・新生児未熟児集中治療医師の増員 ・地域の医療機関との連携システムを構築 ・周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施 ・15床化されたNICUの本格運用開始 	19・20
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・産科医師の確保 ・増加する新生児未熟児医療需要への対応 	
精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	【実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・小児精神科病棟の運用開始 ・子どもの心の診療ネットワーク事業の中核機能を担う拠点病院として連携推進事業の実施 	21・22
	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク事業内容の学校等への周知（認知度の向上） 	

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
24 時間を通して重篤な小児救急患者の受け入れ体制を強化するとともに、患者の重症度に応じ、地域の医療機関と分担して受け入れる体制づくりに協力する	【実績】 ・ 静岡県の小児三次救急を担う ・ 静岡市の二次救急輪番制への参加 ・ 救急隊・ドクターヘリの受入れ ・ 全国から注目を集める P I C U (小児集中治療室)	23
	【課題】 ・ 小児救急医療体制モデルの構築	
小児がん診療の拠点病院として、高度な集学的治療へ積極的に取り組む	【実績】 ・ 院内の各診療科、他職種と連携し高度な集学的治療へ積極的に取り組んでいる 24 年度上期 骨髄移植等件数 4 件	25
	【課題】 ・ がん登録の推進 ・ 細胞処理、保管設備の整備	
機構内 3 病院における連携体制 (周産期医療への対応:総合病院との連携体制)	【実績】 ・ 母体管理など総合病院と連携し対応	31
	【課題】 ・ 人材の交流体制の確立	
診療情報管理機能の整備を図る (電子カルテシステムの導入による業務の効率化・チーム医療の推進)	【実績】 ・ 電子カルテシステムを導入し運用を開始	35
	【課題】 ・ 電算システムへの習熟と、より効率的な運用体制の検討・整備、管理体制の確立	
県民向け・医療機関向け等、情報の受け手を意識した分かりやすい情報発信機能体制の整備を図る (県民向けイベントへの参加)	【実績】 ・ こどもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッセに参加 (昨年に続き 3 回目)	37
	【課題】 ・ より効果的な P R 方法の検討	
教育研修機能の充実を図る	【実績】 ・ マンツーマン指導による後期研修医プログラムの実施	43
	【課題】 ・ 医師の多忙化を解消し、研修機会を確保 ・ 専任の教育担当医師の確保	
地域の病院への医師派遣や地域の初期救急への応援	【実績】 ・ 医師不足の公的病院に医師を派遣 24 年度上期実績 7 医療機関(前年同期 6)に延べ 404 人(前年同期 352 人)	60・61
	【課題】 ・ 小児救急医療体制への貢献のあり方	

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



西館救急外来

* ドクターカーは平成 22 年 6 月に更新した。

(イ) 経営改善

- ・ NICU の 3 床増床や、平成 24 年度から新設された児童・思春期精神科入院医療管理料の算定等、診療報酬の増収を図っている。
- ・ 省エネ対策として平成 22 年度から ESCO 事業（企業が省エネルギーの包括的サービスを行う事業）を導入し、省エネ対策工事を委託実施、23 年度から運用を開始した。24 年度はその成果について検証を行っている。

※（ ）は 23 年度実績の No

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【実績】 ・ 児童・思春期精神科入院医療管理料を算定すること等、新たな施設基準取得に努めた。	82 (81)
	【課題】 ・ 施設基準の維持・拡大	
省エネ事業による経費の節減	【実績】 ・ 光熱費の削減を目指し、ESCO 事業を実施	—
	【課題】 ・ 省エネ対策の実現、検証 ・ 職員の省エネ意識の高揚	

(ウ) 環境改善

- ・ 院内保育所の整備計画を検討中である。

計画実施のための手段	取 組 概 要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る	【実績】 ・ 院内保育所のリニューアル計画の検討	92
	【課題】 ・ 保育所建築場所、運営方法の具体的検討	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (看護 2 交代制の本格実施)	【実績】 ・ 看護師 2 交代制の実施 (H23. 11 月から試行開始、H24. 10 月現在NICU・CCUを除く全病棟で本格実施)	91・93

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立総合病院

中期計画 第1 I 医療の提供	年度 計画 I (1)	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考															
						説明																	
			1	<p>・当直等の勤務体系を考慮した冠動脈疾患集中治療室(CCU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p> <p>・循環器内科の医師の増員はなかった。</p> <table border="1"> <caption>CCU/ICU稼働率</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>98.4</td> <td>97.0</td> <td>92.6</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>1,051</td> <td>528</td> <td>428</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>13.8</td> <td>13.6</td> <td>12.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在 退院・転出を含める</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	稼働率(%)	98.4	97.0	92.6	入室患者数(人)	1,051	528	428	1日平均(人)	13.8	13.6	12.0	<p>・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(循環器内科単独の医師当直勤務及び看護師の常時2対1の交替制勤務)で稼働している。</p> <p>平成22年7月から4床増やして14床を運用し、救急患者受入に対応するとともに、術後の経過観察を強化した。平成24年7月には2床減らして12床としたが、本館3階にハイゲユニット(HCU)12床を開棟し、術後の重症患者への対応を更に充実させた。</p> <p>・循環器内科の医師の増員はなかった。</p>	A	<p>(実績に対する評価) 循環器内科は、循環器病センターの機能を活かして稼働している。</p> <p>(課題) 高度医療機器の活用をより推進する。 循環器科医師のさらなる確保に努力する。</p>
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																				
稼働率(%)	98.4	97.0	92.6																				
入室患者数(人)	1,051	528	428																				
1日平均(人)	13.8	13.6	12.0																				
		<p>循環器病センター機能を生かすべく、循環器病センターの患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る</p>	2	<p>・生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p>	<p>・関係科の医師及びびこメディカルによる合同検討会(総合血管チームカンファレンス)を平成24年度は3回(9月末現在)開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携方法を検討している。</p>		<p>(実績に対する評価) チーム医療の推進に向けての検討の端緒を開くことができた。</p> <p>(課題) クリニカルパスなどを活用し、スムーズに連携できる方策を探る。</p>	A															
			3	<p>・脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>・PTを5名増員し、土曜日のリハビリテーションを試行した。</p> <p>・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。</p> <p>・神経内科、脳神経外科とも医師の増員は実現できなかった。</p> <table border="1"> <caption>脳卒中地域連携診療計画管理料 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>68</td> <td>32</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	算定件数	68	32	25	<p>・PTを5名増員し、土曜日のリハビリテーションを試行した。</p> <p>・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。</p> <p>・神経内科、脳神経外科とも医師の増員は実現できなかった。</p>		<p>(実績に対する評価) 脳血管疾患治療等の推進が期待できる体制が整いつつある。</p> <p>(課題) 医師の確保とともに、血管内治療のできる専門医も確保する必要がある。引き続き、医師、看護師、リハビリスタッフの確保に努力し、SCU等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備を図りたい。</p>	B						
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																				
算定件数	68	32	25																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立総合病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価	備考																																																
第1 1 医療の提供	I 1 (1)	がん患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る	4	<ul style="list-style-type: none"> がんに関する相談支援の窓口を一本化し、情報の提供・発信の強化を図るため、がん相談窓口のスタッフを増強する。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者からの相談に対応する「総合相談センター」を組織上明確化している。センターには、がん相談窓口専従の認定看護師を配置し、患者に対する相談・支援体制を維持している。 がん患者カウンセリング料の施設基準を取得した。 <table border="1"> <caption>がん相談件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>1,466</td> <td>544</td> <td>534</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	がん相談	1,466	544	534	<p>(実績に対する評価)</p> <p>相談業務を総括する総合相談センター組織を運用している。</p> <p>(課題)</p> <p>地域がん診療連携拠点病院の役割として、がん相談をさらに充実させるため、外部からの相談を多く受け取るべく広報する必要がある。がん患者カウンセリング料の施設基準を取得したので、円滑に運用・算定できる体制構築を行う。</p>																																									
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																																																				
がん相談	1,466	544	534																																																				
		がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る	5	<ul style="list-style-type: none"> がん患者が受診後連やかに検査や手術を受けられる体制を構築するため、手術室、内視鏡室、放射線科のスタッフを増員する。 	<ul style="list-style-type: none"> 化学療法も手術室も放射線治療も十分に稼働している。 麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の増員は実現できなかったが、H22に重傷内科医を1名確保できた。 <table border="1"> <caption>(単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来化学療法</td> <td>12,274</td> <td>5,872</td> <td>6,441</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,492</td> <td>3,778</td> <td>3,635</td> </tr> <tr> <td>全身麻酔手術</td> <td>3,359</td> <td>1,651</td> <td>1,631</td> </tr> <tr> <td>胃・大腸・胆膵手術</td> <td>649</td> <td>334</td> <td>345</td> </tr> <tr> <td>放射線治療</td> <td>15,064</td> <td>7,312</td> <td>7,940</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査・処置</td> <td>12,353</td> <td>6,246</td> <td>5,565</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p> <table border="1"> <caption>(単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>P E T検査件数</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働日数(日)</td> <td>233</td> <td>118</td> <td>116</td> </tr> <tr> <td>実施数(院内)</td> <td>2,932</td> <td>1,445</td> <td>1,539</td> </tr> <tr> <td>実施数(院外)</td> <td>1,354</td> <td>679</td> <td>663</td> </tr> <tr> <td>一日平均件数</td> <td>18.9</td> <td>18.5</td> <td>19.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	外来化学療法	12,274	5,872	6,441	手術件数	7,492	3,778	3,635	全身麻酔手術	3,359	1,651	1,631	胃・大腸・胆膵手術	649	334	345	放射線治療	15,064	7,312	7,940	内視鏡検査・処置	12,353	6,246	5,565	P E T検査件数	23年度	H23.9月末	H24.9月末	稼働日数(日)	233	118	116	実施数(院内)	2,932	1,445	1,539	実施数(院外)	1,354	679	663	一日平均件数	18.9	18.5	19.5	<p>(実績に対する評価)</p> <p>化学療法、手術、放射線治療とも十分に提供できている。平成22年度の内視鏡室の改修により検査・治療の環境は向上した。放射線治療器械の増設は平成23年2月から稼働している。</p> <p>(課題)</p> <p>引き続き麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保に努める。</p> <p>また、これら高度な医療機能を地域に開放する取り組みをより一層進めたい。</p>	
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																																																				
外来化学療法	12,274	5,872	6,441																																																				
手術件数	7,492	3,778	3,635																																																				
全身麻酔手術	3,359	1,651	1,631																																																				
胃・大腸・胆膵手術	649	334	345																																																				
放射線治療	15,064	7,312	7,940																																																				
内視鏡検査・処置	12,353	6,246	5,565																																																				
P E T検査件数	23年度	H23.9月末	H24.9月末																																																				
稼働日数(日)	233	118	116																																																				
実施数(院内)	2,932	1,445	1,539																																																				
実施数(院外)	1,354	679	663																																																				
一日平均件数	18.9	18.5	19.5																																																				
		がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る	6	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法センターの拡充と設備整備を行うとともに、スタッフの専門性を向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に外来化学療法センターの改修によりベッド数を11床増床し、余裕のある点滴を行えるようになった。従来各外来診察室で行っていた静脈注射、皮下注射についても機能の充実した同センターで行っている。 専門の認定看護師と認定薬剤師を配置し、より安全・安心な医療の提供に努めている。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。</p> <p>(課題)</p> <p>引き続き化学療法科の医師の確保に努める。</p>																																																	
		重篤な救急患者に対して高度救命救急センターを旨とした機能の段階的な整備を図る	7	<ul style="list-style-type: none"> 医師の増員を図るとともに、勤務体系にも配慮した当直・日直体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師の変則勤務状況 <table border="1"> <caption>医師の変則勤務状況</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,470</td> <td>732</td> <td>734</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>758</td> <td>396</td> <td>391</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>51.6</td> <td>54.1</td> <td>53.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	該当者(人)	1,470	732	734	利用者(人)	758	396	391	利用率(%)	51.6	54.1	53.3	<p>(実績に対する評価)</p> <p>救急委員会を中心に効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持した。</p> <p>平成25年度に向け救急科医師の確保の見通しが立った。</p> <p>(課題)</p> <p>制度を活用できるように医師の負担軽減策を検討する。</p> <p>救命救急センター設置、運営が円滑に行われるように取り組みが必要がある。</p>																																	
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																																																				
該当者(人)	1,470	732	734																																																				
利用者(人)	758	396	391																																																				
利用率(%)	51.6	54.1	53.3																																																				
		重篤な救急患者に対して高度救命救急センターを旨とした機能の段階的な整備を図る	8	<ul style="list-style-type: none"> 救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日昼間の救急外来の曜日別当番医師を定め、夜間・休日のみならず救急患者の受入体制を維持している。 <table border="1"> <caption>救急車受入率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>98.1</td> <td>98.3</td> <td>98.3</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.3</td> <td>91.8</td> <td>92.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	当番日	98.1	98.3	98.3	全日	91.3	91.8	92.3	<p>(実績に対する評価)</p> <p>救急車の受入を断らない体制が維持されている。</p> <p>(課題)</p> <p>さらに救急科医師の確保に努める。</p>																																					
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																																																				
当番日	98.1	98.3	98.3																																																				
全日	91.3	91.8	92.3																																																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

県立こころの医療センター

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																
第1 1 医療の提供	I 1 (2)	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるように支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る	9	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急・急性期医療への対応強化を図るため、診療科体制や看護体制及び在宅医療支援体制を整備する。 また、入院患者を救急・急性期を中心とした重症者に特化し、平均在院日数の短縮を図る。 	<p>・早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するために、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることか、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <table border="1"> <caption>平均在院日数 (単位：日)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>118.2</td> <td>107.7</td> <td>106.4</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数 (医療観察法 による患者を 除く)</td> <td>111.7</td> <td>104.4</td> <td>99.8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>1年以上入院患者数 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年以上入院</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>訪問看護件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>1,803</td> <td>866</td> <td>1,024</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>192</td> <td>87</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	平均在院日数	118.2	107.7	106.4	平均在院日数 (医療観察法 による患者を 除く)	111.7	104.4	99.8	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	1年以上入院	46	48	57	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	訪問看護件数	1,803	866	1,024	(うち複数訪問)	192	87	176	<p>(実績)に対する評価 「精神科急性期ケアマネジメント」の継続、訪問看護等の取組を進めたことにより、平成24年上半期の平均在院日数は、前年度より短縮し、特に医療観察法病床を除いた平均在院日数は目標である100日を下回っている。</p> <p>(課題) 平均在院日数は昨年度より短縮し、医療観察法病床を除いた場合には目標を達成している。入院期間が1年以上となる患者数は前年度と比較して9人増加しているが、これは医療観察法病棟患者の増加によるものが主因と考えられる。今後は、「精神科急性期ケアマネジメント」の定着化や在宅医療支援の強化により、長期在院患者の退院促進を図り、平均在院日数のさらなる短縮化を目指す。また、そのためにも患者や家族等との調整役となるケースワーカー（精神保健福祉士）のさらなる増員が必要である。</p>	
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																				
平均在院日数	118.2	107.7	106.4																																				
平均在院日数 (医療観察法 による患者を 除く)	111.7	104.4	99.8																																				
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																				
1年以上入院	46	48	57																																				
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																				
訪問看護件数	1,803	866	1,024																																				
(うち複数訪問)	192	87	176																																				
	10	<ul style="list-style-type: none"> 新たな入院患者が90日以内に退院できよう促進し、精神科救急入院料及び精神科急性期治療病棟入院料の施設基準を維持するとともに、急性期病棟から救急病棟へのランクアップを目指す。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2)、急性期治療病棟(北2)における「新規患者率」「新規患者3ヶ月以内入院移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 <table border="1"> <caption>新規患者率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>40%以上</td> <td>78.0</td> <td>82.8</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>北2</td> <td>40%以上</td> <td>53.2</td> <td>61.1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急</td> <td>南2</td> <td>60%以上</td> <td>64.2</td> <td>65.6</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>北2</td> <td>40%以上</td> <td>70.6</td> <td>69.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	施設基準	23年度	H23.9末	H24.9末	救急	南2	40%以上	78.0	82.8	急性期	北2	40%以上	53.2	61.1	区分	施設基準	23年度	H23.9末	H24.9末	救急	南2	60%以上	64.2	65.6	急性期	北2	40%以上	70.6	69.4	<p>(実績)に対する評価 救急病棟である南2病棟、急性期病棟である北2病棟ともに、施設基準の水増しは満たしている。特に新規患者3ヶ月以内在宅移行率は、両病棟ともに前年同時期に比べて10%以上上昇している。</p> <p>(課題) 当センターでは急性期治療病棟の北2病棟を、より収益性に優れた救急病棟への早期転換を目指しているが、施設基準が現在よりも厳しくなる「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」をさらに改善するため、在宅医療支援の充実など退院促進の一層の取組が必要となる。</p> <p>また、南1病棟の救急バックアップ病棟としての機能を強化するためには、看護職員の増員が必要である。</p>				
区分	施設基準	23年度	H23.9末	H24.9末																																			
救急	南2	40%以上	78.0	82.8																																			
急性期	北2	40%以上	53.2	61.1																																			
区分	施設基準	23年度	H23.9末	H24.9末																																			
救急	南2	60%以上	64.2	65.6																																			
急性期	北2	40%以上	70.6	69.4																																			

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

県立こころの医療センター

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																
第1 1 医療の提供	1 1 (2)	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるように支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る	11	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療相談など総合的な医療相談の体制整備を図るとともに、広報誌等を活用したPRを行い利用推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 <table border="1"> <caption>精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,012</td> <td>837</td> <td>1,184</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,546</td> <td>632</td> <td>936</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	全相談件数	2,012	837	1,184	うち時間外	1,546	632	936	A	(実績に対する評価) 県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、救急ダイヤルとしての責務を果たした。 また、相談件数も前年比4割増強増加しており、広報活動の成果が表れている。 (課題) 相談件数はこれまでで最も多くなっているが、今後もこの状態を維持するため一層の周知を図る。																				
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																				
全相談件数	2,012	837	1,184																																				
うち時間外	1,546	632	936																																				
			12	<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法による治療効果が低い、重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して実施しており、実施件数も昨年度より増加している。 <table border="1"> <caption>m-ECT実施件数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>延件数(件)</th> <th>実施者数</th> <th>北</th> <th>東</th> <th>西</th> <th>南</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>459</td> <td>37</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H23.9末</td> <td>219</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H24.9末</td> <td>279</td> <td>26</td> <td>21</td> <td>18</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	延件数(件)	実施者数	北	東	西	南	その他	23年度	459	37	30	24	4	3	0	H23.9末	219	22	19	14	3	0	0	H24.9末	279	26	21	18	4	1	0	A	(実績に対する評価) 平成21年7月のm-ECT開始以後、治療件数は順調に増加し、今年度は前年度比3割増強増加した。 また、県中部、富士地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患者を受け入れている。 (課題) 麻酔科医については、現在外部より招聘しているが、今後は法人内部での確保を目指す。
区分	延件数(件)	実施者数	北	東	西	南	その他																																
23年度	459	37	30	24	4	3	0																																
H23.9末	219	22	19	14	3	0	0																																
H24.9末	279	26	21	18	4	1	0																																
		他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする	13	<ul style="list-style-type: none"> 治療抵抗性の症例に対する治療として、先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> クロザピンによる治療が整い、平成22年4月27日、クロザピン適正使用委員会において、CPMS(クロザピン患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 平成23年度に作成した「クロザピン」に基づき、6月から治療を開始し、これまでに9名の患者に投与している。現在7名に対して継続投与中である。 <table border="1"> <caption>登録機関の状況</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全国</th> <th>静岡県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CPMS登録機関数</td> <td>195</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24.10.1現在</p>	区分	全国	静岡県	CPMS登録機関数	195	4	A	(実績に対する評価) 平成23年6月から治療を開始し、これまでに9名の患者に投与し、このうち7名が継続している。大きな治療効果が認められる症例も見られるため、今後も患者の安全を確保しつつ治療に取り組む。 (課題) クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。																										
区分	全国	静岡県																																					
CPMS登録機関数	195	4																																					
		心理・社会的治療についての実施体制を強化拡大する。	14		<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、昨年度は心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを開始した。 研修会の開催 平成24年12月19日 心理教育に関する院内研修会を開催予定 治療の実施 平成23年11月から、各病棟等において選定した患者を対象に治療を開始。 	A	(実績に対する評価) 退院後の地域における安定した生活の維持、再入院の防止のためには、入院中からの患者への心理教育が重要なことから、プロジェクトを発展させ、病院全体として取り組みを開始した。今後は各病棟等において実践することにより、患者の在宅への移行の促進が期待できる。 (課題) 心理教育の実践を診療報酬の算定にいかめしくつなげるかの検討が必要。																																

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

県立こころの医療センター

中期計画 第1	年度 計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明		備考																																																
						内容	評価																																																	
1 医療の提供	1 (2)	計画実施のための手段	15	<p>在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACI)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルを構築し、継続実施する。</p> <p>ACI実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象者</th> <th>活動状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>4人</td> <td>多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>4人</td> <td>多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象者	活動状況	外来	4人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス	入院	4人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス	<p>平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACIによる支援を開始した。</p> <p>平成22年2月の支援開始以来延べ10名の支援活動を実施し、うち1名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は死亡により終了、現在は入院患者4名、外来患者4名への支援を継続している。</p>	A	<p>(実績)に対する評価) 平成21年度に実施したガイドラインの作成とモデルケースでの検証を受け、ACIとしての活動が開始された。着実に事業は進められている。</p> <p>(課題) 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。</p>																																								
				区分	対象者	活動状況																																																		
外来	4人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																						
入院	4人	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																						
			16	<p>医療観察法指定医療機関としての機能を最大限に発揮するよう体制強化を図る。</p>	<p>平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、平成23年3月末には12床への増床が完了した。</p> <p>増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降満床の状態が継続している。</p> <p>医療観察法収支状況 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H23</th> <th>H24計画</th> <th>H24.9月末実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延患者数(人)</td> <td>3,582</td> <td>4,292</td> <td>2,145</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>81.6</td> <td>98.0</td> <td>97.7</td> </tr> <tr> <td>入院医療取 益</td> <td>192,011</td> <td>219,599</td> <td>108,088</td> </tr> <tr> <td>入院取 益</td> <td>182,329</td> <td>217,440</td> <td>108,088</td> </tr> <tr> <td>運営費負担金</td> <td>9,682</td> <td>2,159</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療費用</td> <td>184,804</td> <td>185,628</td> <td>82,339</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>178,566</td> <td>180,828</td> <td>79,440</td> </tr> <tr> <td>薬品費</td> <td>3,142</td> <td>2,704</td> <td>1,352</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>631</td> <td>631</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> <td>1,232</td> </tr> <tr> <td>医療取 支</td> <td>7,207</td> <td>32,971</td> <td>25,747</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H23	H24計画	H24.9月末実績	延患者数(人)	3,582	4,292	2,145	病床利用率(%)	81.6	98.0	97.7	入院医療取 益	192,011	219,599	108,088	入院取 益	182,329	217,440	108,088	運営費負担金	9,682	2,159	0	医療費用	184,804	185,628	82,339	人件費	178,566	180,828	79,440	薬品費	3,142	2,704	1,352	診療材料費	631	631	315	その他経費	2,465	2,465	1,232	医療取 支	7,207	32,971	25,747	A	<p>(実績)に対する評価) 平成21年8月の運用開始以降、法令に添った適正な運用がされている。また、施設の拡充により機能充実が図られ、患者一人一人に対応したきめ細かな治療プログラムの作成と、具内の対象患者の受入が進んだ。</p> <p>年間を通じて満床に近い状態が続いており、収支もほぼ当初見込みどおり確保されている。</p> <p>(課題) 施設の拡充に伴い、入院対象者も増加し、その病態も多様化してくる。よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。</p>	
区分	H23	H24計画	H24.9月末実績																																																					
延患者数(人)	3,582	4,292	2,145																																																					
病床利用率(%)	81.6	98.0	97.7																																																					
入院医療取 益	192,011	219,599	108,088																																																					
入院取 益	182,329	217,440	108,088																																																					
運営費負担金	9,682	2,159	0																																																					
医療費用	184,804	185,628	82,339																																																					
人件費	178,566	180,828	79,440																																																					
薬品費	3,142	2,704	1,352																																																					
診療材料費	631	631	315																																																					
その他経費	2,465	2,465	1,232																																																					
医療取 支	7,207	32,971	25,747																																																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

県立こども病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																	
第1 1. 医療の提供	I 1 (3)	小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な先進的治療を提供する体制を整備する	17	<ul style="list-style-type: none"> 心臓カテーテルによるインターベンション(内科的治療操作)の実施件数の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小児重症心疾患患者に対し、高度で先進的な治療を提供するため、身体への負担が小さく、入院も短期間で済むカテーテル治療の体制整備に取り組んだ。 21年9月に「動脈管閉存症閉鎖セット」の学会認定を取得(県内で1番目、全国で17番目の取得)、治療件数も順調に伸びている。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2">カテーテル治療実績 (単位:件)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>23年度</td> <td>H23.9末</td> <td>H24目標</td> <td>H24.9末</td> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>138</td> <td>70</td> <td>140</td> <td>90</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	カテーテル治療実績 (単位:件)		区分	23年度	H23.9末	H24目標	H24.9末	実施件数	138	70	140	90	<p>(実績に対する評価)</p> <p>新しい治療方法を開始したことにより、これまで他県に紹介していた患者を当院で治療できるようになった。また、カテーテルインターベンション治療件数は昨年同期件数を上回る件数が確保できている。</p> <p>(課題)</p> <p>A 治療の推進は外科手術の減少につながるが、カテーテル治療推進の安全性確保には外科・循環器集中治療科のバックアップが必須である。循環器センター緊急バックアップ体制を確立し、総治療件数の増加を達成するためCCU2床化も視野に入れた実務的な計画を作成する必要がある。</p>						
			カテーテル治療実績 (単位:件)																					
			区分	23年度	H23.9末	H24目標	H24.9末																	
			実施件数	138	70	140	90																	
18	<ul style="list-style-type: none"> 重症心疾患診療体制の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小児循環器集中治療医(CCU医)育成のため、研修プログラムを作成し実践している。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>豊富な症例を背景に若手医師教育も行っている。小児CCU医の育成機能を有するのは全国でも当院のみであり、注目され多数の研修希望・見学依頼がある。</p> <p>(課題)</p> <p>A 現在の人員では、集中治療医が夜勤時間帯に1名となる場合があり、人員増が必要となっている。</p>																					
19	<ul style="list-style-type: none"> 新生児未熟児科医の増員などにより、高度新生児医療の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年2月に病種(修正)事業を実施、NICU病床数を12床から15床に増床し、入院患者数の増加に対応している。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>NICU入院患者数は2,636人(昨年度同期の2,195人に対し、120.0%増)となっており、病床利用率は96.0%と極めて高くなっている。逆搬送を積極的に行うことで、入院依頼には原則全て対応できる体制をとっている。</p> <p>(課題)</p> <p>A 高度な新生児医療を担っているため今後も入院需要が高まることが予想され、医療スタッフ(特に看護師)の確保が今後とも必要である。</p>																					
20	<ul style="list-style-type: none"> 地域の産科医療機関との検社会・研修会を通じて、産科医の診断能力向上を支援する。 	<p>H24 地域医療機関を対象とした研修会等の開催状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>名称</th> <th>参加者区分</th> <th>人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月28日</td> <td>症例検討会</td> <td>医師他</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>5月31日</td> <td>出張講習会</td> <td>医師・助産師</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>7月20日</td> <td>出張講習会</td> <td>医師・助産師</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>9月1日</td> <td>羽衣セミナー</td> <td>医師・検査技師・助産師等</td> <td>172</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	開催日	名称	参加者区分	人数(人)	4月28日	症例検討会	医師他	31	5月31日	出張講習会	医師・助産師	63	7月20日	出張講習会	医師・助産師	51	9月1日	羽衣セミナー	医師・検査技師・助産師等	172	<p>(実績に対する評価)</p> <p>地域医療機関を対象とした研修会、検社会の開催について病院をあげて取り組み地域の医療機関のレベルアップに寄与している。</p> <p>(課題)</p> <p>A</p>	
開催日	名称	参加者区分	人数(人)																					
4月28日	症例検討会	医師他	31																					
5月31日	出張講習会	医師・助産師	63																					
7月20日	出張講習会	医師・助産師	51																					
9月1日	羽衣セミナー	医師・検査技師・助産師等	172																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

県立こども病院

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																					
第1 1. 医療の提供	I 1 (3)	精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	21	・県内の児童精神科医療の中核機関として、外来・入院治療の充実を図る。	<p>「こどもと家族のこころの診療センター」では、「子どものストレスケアクリニック」(摂食障害外来)の設置により、外来・入院患者数増加を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">【こども】</th> <th colspan="3">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24目標</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>7,939</td> <td>3,369</td> <td>6,739</td> <td>4,668</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>11,383</td> <td>5,697</td> <td>11,257</td> <td>5,561</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	【こども】		(単位：人)			区分	23年度	H23.9末	H24目標	H24.9末	入院患者数	7,939	3,369	6,739	4,668	外来延患者数	11,383	5,697	11,257	5,561	(実績)に対する評価 外来患者数は昨年度及び本年度の目標値とほぼ同程度が、見込まれる。入院患者数は昨年度同期実績と比べ、38.6%の増となり、年間目標値を大幅に上回る見込みである。	A	
【こども】		(単位：人)																										
区分	23年度	H23.9末	H24目標	H24.9末																								
入院患者数	7,939	3,369	6,739	4,668																								
外来延患者数	11,383	5,697	11,257	5,561																								
			22	・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">対象・実施時期等</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>障月実施(年3回)</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>院内相談会</td> <td>子ども・家族</td> <td>8施設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月2回実施(年24回)</td> <td>12回(相談件数7件)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小・中学校、幼稚園職員</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月2回実施(年24回)</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	対象・実施時期等		参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	3回	児童養護施設巡回相談	障月実施(年3回)	91人	院内相談会	子ども・家族	8施設		月2回実施(年24回)	12回(相談件数7件)		小・中学校、幼稚園職員	0回		月2回実施(年24回)	0人	(実績)に対する評価 県内におけるこども精神保健ネットワークの中核機関を果たしている。教育現場からの要望を受け、今年度養護施設精神保健講座、巡回相談とも昨年よりも実施回数が増えている。	A
対象・実施時期等		参加者数等																										
精神保健講座	県内小中学校教諭	3回																										
児童養護施設巡回相談	障月実施(年3回)	91人																										
院内相談会	子ども・家族	8施設																										
	月2回実施(年24回)	12回(相談件数7件)																										
	小・中学校、幼稚園職員	0回																										
	月2回実施(年24回)	0人																										
			23	・PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。	<p>救急総合診療科には専任医師4人、有期雇用医師1名、非常勤医師1名を配置。(救急総合診療科は、後期臨床研修医指導の中心的役割を果たしている。)</p> <p>・24年度上期ドクターへリによる患者受入数30人(うちPICU23人)。</p>	(実績)に対する評価 専属の専門医が配置された全国で4箇所しかない独立精神(小児救命救急センター)として指定)を持ち、24時間交通外傷も含めた小児重症患者を受け入れられている。	A																					
		24時間を通して重篤な小児救急患者の受け入れ体制を強化するとともに、患者の重症度に応じ、地域の医療機関と分担して受け入れる体制づくりに協力する	24	・患者の重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を定期的に開催する。	<p>PICU主催行事</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象・実施時期等</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児集中治療センターキャンプ</td> <td>国内PICU専門研修等</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>PALS(小児の2次救命処置)研修会</td> <td>医師、看護師、救急隊員</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	対象・実施時期等	参加者数	小児集中治療センターキャンプ	国内PICU専門研修等	0	PALS(小児の2次救命処置)研修会	医師、看護師、救急隊員	0	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	69	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	14	(実績)に対する評価 県内医師、看護師、救急救命士の技術向上のため、研究会・研究会・実習を開催している。	A						
区分	対象・実施時期等	参加者数																										
小児集中治療センターキャンプ	国内PICU専門研修等	0																										
PALS(小児の2次救命処置)研修会	医師、看護師、救急隊員	0																										
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	69																										
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	14																										
		小児がん診療の拠点病院として、高度な集学的治療へ積極的に取り組む	25	・静岡小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。	<p>静岡小児がん拠点病院として指定された。</p> <p>・術後5年生存率は世界標準を上回っており、高度な技術水準を擁している。</p>	(実績)に対する評価 県内小児がん患者のほとんどに対応し、固形がんについても脳神経外科等他科との連携のもと対応している。平成21年には「静岡小児がん拠点病院」に指定された。	A																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																												
第1 1 医療の提供	1 (1)	患者と必要に応じてその家族と治療計画・経過の情報を共有することにより、患者に安心感を与えるとともに、科学的根拠に基づく医療を提供する体制の整備を図る	26	<ul style="list-style-type: none"> 運用実績を通じてエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行うことにより、医療の質を確保し入院中の経過を分かりやすく説明できるクリニカルパスの適用率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、新規作成数4件、修正29件の審議・承認を行った。現在、総数は221件となっている。 H24年度9月末現在のクリニカルパス適用率は66.0%であった。 <table border="1"> <caption>クリニカル・パス作成件数 (単位: 件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規承認</td> <td>16</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>修正承認</td> <td>71</td> <td>25</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>総件数</td> <td>217</td> <td>206</td> <td>221</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	新規承認	16	5	4	修正承認	71	25	29	総件数	217	206	221	<p>(実績に対する評価)</p> <p>クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。</p> <p>(課題)</p> <p>今後引き続き新規パス作成、既存パスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいうシステムにしていく。</p>																													
	区分		23年度	H23.9月末	H24.9月末																																														
	新規承認		16	5	4																																														
修正承認	71	25	29																																																
総件数	217	206	221																																																
27	<ul style="list-style-type: none"> DPCの診療情報に基づく症例分析を行う 	<ul style="list-style-type: none"> DPC分析ソフトを用いて他院とのベンチマーク分析、当院のDPC分析を行った。他院とのベンチマークについては、当院で取得している施設基準、特別食加算等の算定状況と比較した。また、転院症例の平均在院日数について比較を行った。当院のDPC分析については、DPC請求額や入院期間率等の推移を分析した。 全自病DPC報告書を基に、後発医薬品使用率やDPCカバー率を全国の自治体病院と比較した。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>DPC分析ソフトの導入により他施設との比較を行うことが可能となり、施設基準取得状況・算定状況、在院日数等のベンチマーク分析を実施した。</p> <p>(課題)</p> <p>今後は、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。</p>																																																
28	<ul style="list-style-type: none"> 入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> クロザピンによる治療を開始するにあたり、新規クリニカルパスを導入した。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科にあっても、導入が可能なものについては、積極的に導入している。</p> <p>(課題)</p> <p>導入したクリニカルパスの着実な実践を図る必要がある。</p>																																																
29	<ul style="list-style-type: none"> DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックするため、診療情報の管理体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報管理室を設置し、職員3名を配置した。 診療情報管理士を中心に委託業者と共にコーディング・診療内容の確認作業を行っている。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>診療情報管理室の設置により医事スタッフとの業務分担が明確になった。</p> <p>電子カルテの導入により、カルテ情報の収集が容易になった。</p> <p>(課題)</p> <p>診療情報管理士の本来の業務である情報抽出・分析・活用業務を果たすための職員のスキルアップが必要である。</p>																																																
30	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な医療を提供するため、感染症等に関する情報を分析・評価し、院内感染防止対策・医療安全対策を講じる 	<ul style="list-style-type: none"> 医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3病院で、29回の院内感染対策研修、33回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。 医療安全全国共同行動のモニター施設としてレベルの向上を目指す。 今年度、3病院において集団感染は発生していない。 <table border="1"> <caption>医療安全対策</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">集団感染数(件)</th> <th colspan="2">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>H20</th> <th>H21・22</th> <th>H23</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加人数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>259</td> <td>10</td> <td>1,137</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>292</td> <td>6</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>14</td> <td>366</td> <td>17</td> <td>775</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>23</td> <td>907</td> <td>33</td> <td>2,071</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	集団感染数(件)		院内感染対策研修		医療安全対策研修		H20	H21・22	H23	研修数(回)	参加人数(人)	研修数(回)	参加人数(人)	総合	0	0	0	5	259	10	1,137	こころ	1	0	0	4	292	6	159	こども	0	1	0	14	366	17	775	計	1	1	0	23	907	33	2,071	<p>(実績に対する評価)</p> <p>各病院において継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>(課題)</p> <p>引き続き院内感染防止及び医療安全に必要な措置を講じる。</p>	
区分	集団感染数(件)		院内感染対策研修		医療安全対策研修																																														
	H20	H21・22	H23	研修数(回)	参加人数(人)	研修数(回)	参加人数(人)																																												
総合	0	0	0	5	259	10	1,137																																												
こころ	1	0	0	4	292	6	159																																												
こども	0	1	0	14	366	17	775																																												
計	1	1	0	23	907	33	2,071																																												

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																														
第1 1 医療の提供	I 1 (1) (2) (3)	機構内3病院における連携体制	31	<p>・周産期医療や精神身体合併症等に対して、機構内3病院が連携し、より最適な医療の提供を行う。</p>	<p>【総合/総合】 ・身体合併症患者の診察のため、総合病院の内科医が定期的 に往診を実施している。また、皮膚科医も応援体制が確立され ている。なお、緊急時には、総合病院へ搬送することとしてい る。 【このころ/総合】 ・総合病院の緩和医療チームにこのころの医療センター 医師が参 加している。 【このころ/このころ】 ・児童の措置入院等、このころ病院での受入れ困難な場合はこの ころの医療センターにて受入れている。 【総合/このころ】 ・総合病院から切迫早産等によりこのころ病院への搬送7例 【このころ/総合】 ・このころ病院周産期センターより母体の急変により総合病院への 搬送1例</p>	<p>(実績に関する評価) 3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医 師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力的 体制を密に実施している。 (課題) 限られた人的資源をいかに効果的に活用してい くか、病院間横断的な検討を行う必要がある。</p>																															
			32	<p>・患者の視点に立った質の高い医療の提 供を目指し、患者要望等の確かな把握及 び患者満足度調査を行う。</p>	<p>【3病院共通】 ・調査項目の一部を3病院共通化した。 ・調査を平成24年10月に実施した。 【総合】 ・【このころ】 ・【このころ】 患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24 (集計中)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>入院 93.2</td> <td>92.6</td> <td>89.5</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 83.4</td> <td>80.5</td> <td>86.7</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>このころ</td> <td>入院 85.6</td> <td>85.9</td> <td>84.2</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 91.0</td> <td>88.9</td> <td>92.8</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>このころ</td> <td>入院 90.2</td> <td>86.7</td> <td>86.2</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H21	H22	H23	H24 (集計中)	総 合	入院 93.2	92.6	89.5	0.0		外来 83.4	80.5	86.7	0.0	このころ	入院 85.6	85.9	84.2	0.0		外来 91.0	88.9	92.8	0.0	このころ	入院 90.2	86.7	86.2	0.0	<p>(実績に対する評価) (課題) 集計中</p>	
区 分	H21	H22	H23	H24 (集計中)																																	
総 合	入院 93.2	92.6	89.5	0.0																																	
	外来 83.4	80.5	86.7	0.0																																	
このころ	入院 85.6	85.9	84.2	0.0																																	
	外来 91.0	88.9	92.8	0.0																																	
このころ	入院 90.2	86.7	86.2	0.0																																	
		<p>患者の視点に立った医療を提供するた め、患者が納得して治療方法を選択す る機会を提供するセカンドオピニオン制 度や説明と同意(インフォームドコンセ ント)に基づく治療を推進する体制を整 備する。 患者ニーズの把握と適切な対応</p>	33	<p>・セカンドオピニオン外来を充実する。</p>	<p>セカンドオピニオン数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>103</td> <td>48</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>このころ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>このころ</td> <td>47</td> <td>23</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区 分	23年度	H23.9末	H24.9末	総 合	103	48	65	このころ	—	—	—	このころ	47	23	27	<p>(実績に対する評価) (課題) 継続的に依頼を受ける体制を維持している。 ・転院希望なのかセカンドオピニオン希望なのか の切り分けが難しい。 ・日常診療が多忙で卒の確保が課題である。</p>															
区 分	23年度	H23.9末	H24.9末																																		
総 合	103	48	65																																		
このころ	—	—	—																																		
このころ	47	23	27																																		

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価説明	備考																												
第1 2 医療に関する調査及び研究 (1) 診療等の情報の活用 (2) 県民への情報提供の実 (3) 産学官連携等への協力	I 1 (1) (2) (3)	計画実施のための手段 診療情報管理機能の整備を図る	34	<ul style="list-style-type: none"> 診療情報管理機能の強化を図るため、診療情報管理業務に専門的に携わる職員を配置する。 	<p>平成24年度診療情報管理室等への配置状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>総合</th> <th>子ども</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3(1)</td> <td>0</td> <td>4(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>()内の内書きは、事務職員の数</p> <p>業務内容 カルテ情報のチェックのほか、診療情報の抽出、診療情報統計資料作成やDPCデータのチェックを行い、各病院における診療情報管理の中核的な役割を担っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務職員への専門性向上のため、業務の一環として、診療情報管理士資格の取得を推奨しており、平成24年度までに5人が通信教育専門課程を終了し、資格試験を受験予定である。 	総合	子ども	計	3(1)	0	4(1)	<p>(実績)に対する評価) 各病院において、診療情報管理士や事務プロパー職員との連携を図り、診療情報の有効活用のため、基盤整備が整ってきている。 資格者の配置により、その他の職員も含めた医療業務全体のレベルアップに繋がっている。 (課題) 今後は、診療情報管理部門が機能的に活用されるよう、教育研修を進める必要がある。</p> <p>A</p>																							
					総合	子ども	計																												
					3(1)	0	4(1)																												
<p>電子カルテの導入により次の点で効果があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> カルテ検査業務の大幅な減少 カンファレンス時での患者情報の大画面での表示によりチーム医療の支援 画像参照や検査結果を画面で提示して、分かりやすい病態治療方針等の患者への説明が可能となることによる患者サービスの向上 患者ターゲット管理による、重複処方、過剰検査への警告等医療事故防止 	<p>(実績)に対する評価) 部門システムを含めたの全面更新にも関わらず想定予算に対して比較的安価にシステム更新ができた。また重症患者管理システムとの連携等子ども専門病棟として必要な機能も盛り込むことができた。 (課題) 情報管理システム管理体制(部門システムとの連携等も含む)を確立する必要がある。 (実績)に対する評価) 公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができたと同時に、県立病院の取組みについてもPRすることができた。 (課題) 引き続き、最新医療に関する情報発信を行うとともに、ニーズに対応した内容の検討に努める。</p> <p>A</p>																																		
<p>公開講座の開催 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内</th> <th>外</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県民向け</td> <td>県民の日講演会</td> <td>先端医療アセスセミナー</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>かん公開講座(H25.1月、2月)</td> <td>耳の日講演会</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>精神医療福祉ボランティア養成講座</td> <td>精神科疾患勉強会</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">子ども</td> <td>病院が行うケアの一例としての連携会</td> <td>認知症(こころと物忘れ外来)講座</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>アレルギーについて講義</td> <td>トリアージュ～小児救急から災害医療～</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>母乳と母乳ビンの基礎知識</td> <td>—</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">医療機関向け</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9未現在</p>		区分	内	外	参加者	県民向け	県民の日講演会	先端医療アセスセミナー	32	かん公開講座(H25.1月、2月)	耳の日講演会	—	精神医療福祉ボランティア養成講座	精神科疾患勉強会	6	子ども	病院が行うケアの一例としての連携会	認知症(こころと物忘れ外来)講座	12	アレルギーについて講義	トリアージュ～小児救急から災害医療～	39	母乳と母乳ビンの基礎知識	—	72	医療機関向け	—	—	22	—	—	—	—	—	—
区分		内	外	参加者																															
県民向け	県民の日講演会	先端医療アセスセミナー	32																																
	かん公開講座(H25.1月、2月)	耳の日講演会	—																																
	精神医療福祉ボランティア養成講座	精神科疾患勉強会	6																																
子ども	病院が行うケアの一例としての連携会	認知症(こころと物忘れ外来)講座	12																																
	アレルギーについて講義	トリアージュ～小児救急から災害医療～	39																																
	母乳と母乳ビンの基礎知識	—	72																																
医療機関向け	—	—	22																																
	—	—	—																																
	—	—	—																																

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																			
						説明																					
第1 2 医療に関する調査及び研究 (1) 診療等の情報の活用 (2) 県民への情報提供の実 (3) 産学官連携等への協力	I 1 (1) (2) (3)	県民向け・医療機関向け等、情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信機能体制の整備を図る	37	<ul style="list-style-type: none"> 県民向けイベントへの開催・参加【総合・こども病院】 ・県民向けイベントへの開催・参加 	<ul style="list-style-type: none"> 県民にこども病院内の活動を知らせていただき、身近な病院として認識していただくため、10月6日、7日ツインメッセで行われた静岡県等が子育て世代を対象に主催する「こどもみらいプロジェクト秋まつりmツインメッセ」に参加。健康相談コーナー、写真撮影コーナー、セラピードッグに触れ合いコーナーを設置し、こども病院内のPRを行った。 ・健康相談 54組、写真撮影907人 セラピードッグ251人の来場があった。 ・静岡県立総合病院内の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことにより、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、毎年2月に県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催している。 	<p>(実績)に対する評価</p> <p>「こどもみらいプロジェクト秋まつりmツインメッセ」(昨年度まで「ハッピーズ！プロジェクト」)は昨年度に引き続き3回目の参加。多くの県民にこども病院を知っていただく機会となった。</p> <p>オープンホスピタル3回目の23年度は、参加者は1200人以上と盛況で、病院内の施設や取組、最新の医療等の情報を提供する場となり、来場者からも好評を得ている。</p> <p>(課題)</p> <p>来年度以降について、アンケート結果を考慮し、より効果的なPR方法を検討する必要がある。</p>	A	<p>(実績)に対する評価</p> <p>ホームページの更新、及びアクセス件数は順調な伸びを示し、情報提供は着実に推進している。</p> <p>(課題)</p> <p>統一的で、戦略的な視点に基づき情報の集約・発信を行うための仕組みづくりを引き続き行う。アクセスの内容を分析した上で対応策を実施し病院内の業務に生かしていく。</p>																			
				<ul style="list-style-type: none"> 各病院の医療情報やトピックスを県民等に向けてできるだけ早く情報提供するため、各病院ホームページを適時更新するとともに、本部においては、入札情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 ・各病院でホームページ毎のアクセス数を確認し、更新の更なる推進を図った。 	<p>ホームページ更新件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区 分</td> <td>23年度</td> <td>H23.9末</td> <td>H24.9末</td> <td>前年同月比</td> </tr> <tr> <td>更新件数</td> <td>1,895</td> <td>1,139</td> <td>1,211</td> <td>106%</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p> <p>ホームページアクセス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区 分</td> <td>23年度</td> <td>H23.9末</td> <td>H24.9末</td> <td>前年同月比</td> </tr> <tr> <td>アクセス件数</td> <td>3,033,242</td> <td>1,530,547</td> <td>1,730,462</td> <td>113%</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区 分	23年度		H23.9末	H24.9末	前年同月比	更新件数	1,895	1,139	1,211	106%	区 分	23年度	H23.9末	H24.9末	前年同月比	アクセス件数	3,033,242	1,530,547	1,730,462	113%	A
				区 分	23年度	H23.9末	H24.9末		前年同月比																		
更新件数	1,895	1,139	1,211	106%																							
区 分	23年度	H23.9末	H24.9末	前年同月比																							
アクセス件数	3,033,242	1,530,547	1,730,462	113%																							
<ul style="list-style-type: none"> 最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、県政記者クラブへ、同様に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 	<p>記者情報提供件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区 分</td> <td>23年度</td> <td>H23.9末</td> <td>H24.9末</td> <td>前年同月比</td> </tr> <tr> <td>提供件数</td> <td>52</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>90%</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区 分	23年度	H23.9末	H24.9末	前年同月比	提供件数	52	21	19	90%	<p>(実績)に対する評価</p> <p>県政記者クラブへの情報提供件数は、若干減少しているものの昨年度同様の水準を保っている。テレビ・新聞等において、報道、掲載が多数あり、情報提供は着実に推進している。</p> <p>(課題)</p> <p>情報発信の一層の推進を図るため、職員一人ひとりが、常に県立病院を広報するよう、職員の意識啓発を行う。</p> <p>スピーディーに情報提供するために、県政記者クラブだけでなく、独自に機構からの情報提供を適時に実施していく。</p>	A														
区 分	23年度	H23.9末	H24.9末	前年同月比																							
提供件数	52	21	19	90%																							

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																																									
						説明																																											
			40	<ul style="list-style-type: none"> 公的病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 	<ul style="list-style-type: none"> 不採算医療にかかる収支などを明らかにするための端緒となる原価計算(管理会計)システムについて、まず、総合病院において稼働した。 今後は、行政に負担してもらわなければならない収支を明確化するため、データの蓄積及び分析を行っていく。 	(実績)に対する評価) 不採算医療にかかる収支の明確化に関しては、その端緒となるシステムの構築を開始した。 (課題) 構築中である管理会計システムを随時ブラッシュアップして、将来的に、不採算医療等の明確化が可能となるように努力する。																																											
第1	I 1 (1) (2) (3)		41	<ul style="list-style-type: none"> 医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。 臨床試験管理センターによる臨床研究の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 外部資源を活用した研究を進めるため、企業、法人及び研究機関等からの薬学寄附金(研究の奨励を主たる目的として研究内容等を指定した寄附金)の受入れを可能とするための規程等を整備した。 【総合】 厚生労働科学研究への参加 分担研究 3件 昨年度に引き続き、厚生労働省の「医療の質の評価・公表等推進事業」の対象団体3団体のうち、日本病院会の30病院の11病院として事業に参加することとし、11の指標データの提供を毎月行っている。 【こころ】 厚生労働科学研究への参加、分担研究班 4件 <table border="1"> <caption>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24(予定)</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>件数</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>46</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額</td> <td>58,281</td> <td>27,229</td> <td>76,897</td> <td>34,411</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>件数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>件数</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>35</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td></td> <td>契約額</td> <td>8,749</td> <td>8,749</td> <td>19,114</td> <td>7,793</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24(予定)	H24.9末	総合	件数	23	19	46	19		契約額	58,281	27,229	76,897	34,411	こころ	件数	0	0	0	0		契約額	0	0	0	0	こども	件数	21	21	35	19		契約額	8,749	8,749	19,114	7,793	(実績)に対する評価) 厚生労働科学研究などに参加することを通じ、医療水準の向上に努めた。 (課題) 引き続き、医療水準の向上に資する臨床研究への取組を行っていく。		
区分	23年度	H23.9末	H24(予定)	H24.9末																																													
総合	件数	23	19	46	19																																												
	契約額	58,281	27,229	76,897	34,411																																												
こころ	件数	0	0	0	0																																												
	契約額	0	0	0	0																																												
こども	件数	21	21	35	19																																												
	契約額	8,749	8,749	19,114	7,793																																												
		大学等との連携	42	<ul style="list-style-type: none"> 県立大学との共同研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬学教室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。 	(実績)に対する評価) 研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。 (課題) より一層、患者に役立つ臨床研究の成果が期待される。																																											

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価説明	備考																
第1 3 医療に関する技術者の研修 (1) (2) (3)		43	<p>○医師</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。 	<p>海外研修の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた。</p> <table border="1"> <caption>海外研修の主な実績 (単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>臨床研修医(UCLA)研修 海外学会(米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など)演題発表</td> <td>4 5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の学会に治療実績等の発表を行い技術力の高さを示した。 海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。 <p>【子ども】研修プログラムの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数のセクションを回ることができる仕組みを構築し、研修生の希望に沿ったプログラムを提供する体制を整備した。 	区分	内容	人数	総合	臨床研修医(UCLA)研修 海外学会(米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など)演題発表	4 5	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p> <p>(課題)</p> <p>医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分にされていない。 研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。</p>											
区分	内容	人数																				
総合	臨床研修医(UCLA)研修 海外学会(米国胸部疾患学会、国際肺癌学会など)演題発表	4 5																				
	教育研修機能の充実を図る	44	<p>○看護師及びその他の医療従事者</p> <ul style="list-style-type: none"> スキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 	<p>認定看護師研修に2人を派遣(緩和ケア1人、認知症看護1人)し、研修中。</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師(乳がん看護)2人取得 がん薬物療法認定薬剤師3人、認定実務実習指導薬剤師8人、感染制御認定薬剤師1人、栄養サポートチーム専門薬剤師1人、認定CRC1人取得。 専門理学療法士2人(運動器、内部障害理学療法の両方)1人、認定看護師研修に1人(うつ病看護)派遣中。 認定看護師研修に1人(緩和ケア)派遣中。 <p>【総合】</p> <p>認定看護師育成状況 (H24.9末現在)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>分野・領域</th> <th>取得人数</th> <th>取得見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>9分野</td> <td>13人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>5領域</td> <td>7人</td> <td>1領域1人</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>7分野</td> <td>8人</td> <td>1分野1人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	分野・領域	取得人数	取得見込	総合	9分野	13人		子ども	5領域	7人	1領域1人	子ども	7分野	8人	1分野1人	<p>(実績に対する評価)</p> <p>感染管理、集中ケア、退院調整等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置することができた。 また、資格取得を推奨・支援する体制も整っている。</p> <p>(課題)</p> <p>今後は、専門分野においても資格取得者を拡充していく必要がある。 資格取得に関するインセンティブの付与等について制度的に検討する必要がある。</p>	
区分	分野・領域	取得人数	取得見込																			
総合	9分野	13人																				
子ども	5領域	7人	1領域1人																			
子ども	7分野	8人	1分野1人																			

3 項目別実績

中期計画 第1 泉民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価説明	備考																																																					
					23年度	H24.9月末																																																							
第1 4 医療に関する地域への支援	1		45	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医との連携を充実することにより、入院から在宅まで一貫した高度医療の提供や病状急変時における対応等が可能となるよう連携・機能分担体制を進める。 	<p>【総合】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>81.5</td> <td>81.4</td> <td>80.0</td> <td>80.9</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>105.1</td> <td>99.7</td> <td>90.0</td> <td>112.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p> <p>※実績はH24.9末現在</p>		区分	23年度	H23.9末	H24.9末	H24.9末	紹介率	81.5	81.4	80.0	80.9	逆紹介率	105.1	99.7	90.0	112.6	<p>(実績に対する評価) 紹介率は、年度目標を上回ったものの昨年度実績を下回っている。 逆紹介率は、年度目標及び昨年度実績を上回っている。 また、薬カードの発行枚数も順調に伸びている。総務省公費事業に採択されたことで、連携のためのネットワーク基盤の整備が実現することは、医療連携推進に大きな一歩となる。</p> <p>(課題) A 病病連携をより充実させる必要がある。 ネットワークを維持・活用する。</p>																																							
	区分				23年度	H23.9末	H24.9末	H24.9末																																																					
紹介率	81.5	81.4	80.0	80.9																																																									
逆紹介率	105.1	99.7	90.0	112.6																																																									
2 (1)	<p>総合</p> <p>地域連携クリニカルパス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>68</td> <td>32</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頭部骨折</td> <td>109</td> <td>51</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>96</td> <td>47</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>149</td> <td>36</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>100</td> <td>49</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>89</td> <td>62</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>628</td> <td>291</td> <td>318</td> </tr> </tbody> </table> <p>【ところ】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>67.1</td> <td>68.6</td> <td>54.0</td> <td>65.2</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>48.3</td> <td>48.8</td> <td>34.0</td> <td>29.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	脳卒中	68	32	26	大腿骨頭部骨折	109	51	47	胃がん	96	47	47	大腸がん	149	36	70	乳がん	100	49	59	前立腺がん	16	13	33	虚血性心疾患	0	0	0	慢性腎臓病	89	62	36	肺がん	1	1	0	計	628	291	318	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	H24.9末	紹介率	67.1	68.6	54.0	65.2	逆紹介率	48.3	48.8	34.0	29.3	<p>(実績に対する評価) 地域連携クリニカルパスの適用推進により、関係機関との連携が行われている。</p> <p>(課題) A 急性期のリハビリを充実させて、リハビリテーション病院の機能に連携させる必要がある。</p>
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																																										
脳卒中	68	32	26																																																										
大腿骨頭部骨折	109	51	47																																																										
胃がん	96	47	47																																																										
大腸がん	149	36	70																																																										
乳がん	100	49	59																																																										
前立腺がん	16	13	33																																																										
虚血性心疾患	0	0	0																																																										
慢性腎臓病	89	62	36																																																										
肺がん	1	1	0																																																										
計	628	291	318																																																										
区分	23年度	H23.9末	H24.9末	H24.9末																																																									
紹介率	67.1	68.6	54.0	65.2																																																									
逆紹介率	48.3	48.8	34.0	29.3																																																									
46	<p>地域の医療機関との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折を対象とした現行の地域連携クリニカルパス適用患者の充実を図る。 ・リハビリテーション病院との連携強化等、病院間の機能分担を推進する。 	<p>(実績に対する評価) 紹介率は目標を上回っているものの、逆紹介率は下回っている。</p> <p>(課題) A 「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。</p>																																																											
47	<p>地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制の整備を推進する。 		<p>(実績に対する評価) 紹介・逆紹介共に順調に実績が伸びている。</p> <p>(課題) A 地元医療機関における急性期以降の患者受入れが可能な環境整備が急務である。</p>																																																										
48	<p>地域医療連携室として、施設の院外医療関係者利用促進を図る。</p>	<p>【こども】 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>99.7</td> <td>99.9</td> <td>89.1</td> <td>99.5</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>34.2</td> <td>32.8</td> <td>31.1</td> <td>34.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>		区分	23年度	H23.9末	H24.9末	H24.9末	紹介率	99.7	99.9	89.1	99.5	逆紹介率	34.2	32.8	31.1	34.2																																											
区分	23年度		H23.9末	H24.9末	H24.9末																																																								
紹介率	99.7	99.9	89.1	99.5																																																									
逆紹介率	34.2	32.8	31.1	34.2																																																									
49																																																													

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価 説明	備考																				
					業務実績	業務の実績																						
第1 4 医療に関する地域への支援	1	医師派遣など地域医療機関の支援をする	50	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 	医師派遣実績 (単位：機関、科、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>延べ人員数</td> <td>753</td> <td>439</td> <td>386</td> </tr> </tbody> </table> ※実績はH24.9末現在		区分	23年度	H23.9末	H24.9末	医療機関	10	10	13	診療科	11	11	12	延べ人員数	753	439	386	A	(実績に対する評価) 医師派遣の要望はさらに増えており、昨年度から沼津市立病院、清水厚生病院、藤枝市立総合病院にも派遣開始した。 (課題) 派遣元の県立病院の医師の確保が課題である。				
	区分				23年度	H23.9末	H24.9末																					
	医療機関				10	10	13																					
診療科	11	11	12																									
延べ人員数	753	439	386																									
2	PETイメージングセンター共同利用 (単位：件、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,286</td> <td>2,124</td> <td>2,202</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,640</td> <td>829</td> <td>818</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>38.3</td> <td>39.0</td> <td>37.1</td> </tr> <tr> <td>検診件数</td> <td>108</td> <td>60</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table> ※実績はH24.9末現在	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	件数	4,286	2,124	2,202	共同利用件数	1,640	829	818	共同利用率	38.3	39.0	37.1	検診件数	108	60	56	(実績に対する評価) 診療報酬の施設基準20%と比べて、高い共同利用率となっており、地域の医療機関に利用されている。 PET検診の提携先検診機関は4機関あり、順調に利用されている。 (課題) PET検診の提携先を増やしていく。						
区分		23年度	H23.9末	H24.9末																								
件数	4,286	2,124	2,202																									
共同利用件数	1,640	829	818																									
共同利用率	38.3	39.0	37.1																									
検診件数	108	60	56																									
(2)	地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る	平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせた。 CT、MRIともコンスタントに利用されている。 (課題) 放射線科医(読影医)の確保	(実績に対する評価) CT、MRIともコンスタントに利用されている。 (課題) 放射線科医(読影医)の確保	A																								
総合		地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る	51	<ul style="list-style-type: none"> PET共同利用率については、地域診療機関への啓蒙活動を継続し、共同利用率の向上を図る。 	PET共同利用 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>1,064</td> <td>533</td> <td>521</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>768</td> <td>410</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>121</td> <td>53</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table> ※実績はH24.9末現在	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	CT	1,064	533	521	MRI	768	410	381	CT(撮影のみ)	9	4	0	MRI(撮影のみ)	121	53	52	A	(実績に対する評価) 平成22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせた。 CT、MRIともコンスタントに利用されている。 (課題) 放射線科医(読影医)の確保	
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																									
CT	1,064	533	521																									
MRI	768	410	381																									
CT(撮影のみ)	9	4	0																									
MRI(撮影のみ)	121	53	52																									
		地域の医師会等の合同講演会等の開催を通じて、地域医療の水準の向上に寄与する体制の整備を図る	52	<ul style="list-style-type: none"> 院内外の研修会等を定期的に開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じて、かかりつけ医へ最新の医療情報を提供する。 	慢性期医療を考える会1回開催 延参加人数84人	A	(実績に対する評価) 医師会との研究会の合同開催等に積極的に取り組み、多くの参加を得ている。																					
		地域の医師会等の合同講演会等の開催を通じて、地域医療の水準の向上に寄与する体制の整備を図る	53			A																						

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考														
第1 4 医療に関する地域への支援	1	精神障害者及び家族からの精神医療に関する救急的な相談に応じ、必要となる情報を提供する	54	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療への対応の充実強化を図るため、精神科救急情報センターに専用電話を設置し、2時間体制で精神障害者及び家族からの相談に応じ、必要な情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,012</td> <td>837</td> <td>1,184</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,546</td> <td>632</td> <td>936</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)		区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	全相談件数	2,012	837	1,184	うち時間外	1,546	632	936	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等からの相談に対応し、救急ダイヤルとしての責務を果たした。相談件数は前年同期と比べて約40%増加、特に時間外の件数は48%増加している。</p> <p>(課題)</p> <p>相談件数はこれまでで最も多くなっているが、今後もこの状態をキープするため一層の周知を図る。</p>	A
	精神科救急ダイヤル件数 (単位：件)																				
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																		
全相談件数	2,012	837	1,184																		
うち時間外	1,546	632	936																		
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>20</td> <td>13</td> <td>18</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回)		区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	派遣回数	20	13	18	<p>(実績に対する評価)</p> <p>他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行い、また、ホームページや広報誌を活用し、新たな情報を随時提供することができた。</p> <p>今年度は、一般県民を対象とした講座を2回開催した。</p> <p>(課題)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p>								
院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回)																					
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																		
派遣回数	20	13	18																		
		<ul style="list-style-type: none"> 学会発表・医療情報誌等への論文掲載など、医療情報の発信を推進する。 	55	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急医療への対応の充実強化を図るため、精神科救急情報センターに専用電話を設置し、2時間体制で精神障害者及び家族からの相談に応じ、必要な情報を提供する。 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> <tr> <td>派遣回数</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>18</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回)		区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	派遣回数	20	10	18	<p>(実績に対する評価)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p> <p>(課題)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p>					
院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回)																					
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																		
派遣回数	20	10	18																		
		<ul style="list-style-type: none"> 精神科医療公開講座の開催を推進する。 	56	<ul style="list-style-type: none"> 学協会発表・医療情報誌等への論文掲載など、医療情報の発信を推進する。 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">精神科医療公開講座開催状況 (単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>講座内容</th> <th>開催月</th> <th>参加者</th> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>精神科医療福祉ボランティア養成</td> <td>H24.6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>認知症(こころと物忘れ外来)講座</td> <td>H24.10</td> <td>74</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.10末現在</p>	精神科医療公開講座開催状況 (単位：人)		区分	講座内容	開催月	参加者	一般県民向け	精神科医療福祉ボランティア養成	H24.6	6	一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H24.10	74	<p>(実績に対する評価)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p> <p>(課題)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p>	
精神科医療公開講座開催状況 (単位：人)																					
区分	講座内容	開催月	参加者																		
一般県民向け	精神科医療福祉ボランティア養成	H24.6	6																		
一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H24.10	74																		
		<ul style="list-style-type: none"> 広報誌(情報誌・NEWS)等の発行、ホームページを活用した情報の発信機能を強化する。 	57	<ul style="list-style-type: none"> 精神科医療公開講座の開催を推進する。 	<p>精神科医療公開講座開催状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>講座内容</th> <th>開催月</th> <th>参加者</th> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>精神科医療福祉ボランティア養成</td> <td>H24.6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>認知症(こころと物忘れ外来)講座</td> <td>H24.10</td> <td>74</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.10末現在</p>	区分	講座内容	開催月	参加者	一般県民向け	精神科医療福祉ボランティア養成	H24.6	6	一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H24.10	74	<p>(実績に対する評価)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p> <p>(課題)</p> <p>今年度は2回の公開講座を開催したが、院外からの参加者も伸び悩んだことから、特に院外からの参加者を増やすための検討が必要である。</p>			
区分	講座内容	開催月	参加者																		
一般県民向け	精神科医療福祉ボランティア養成	H24.6	6																		
一般県民向け	認知症(こころと物忘れ外来)講座	H24.10	74																		
		<ul style="list-style-type: none"> 医療にかかわる認定等の要請への協力な社会的要請への積極的な対応を図る 	58	<ul style="list-style-type: none"> 認定等への対応、医療編纂法の認定医として協力CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)		区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	こころ	8	6	7	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。</p>					
医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)																					
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																		
こころ	8	6	7																		
		<ul style="list-style-type: none"> 認定等への対応、医療編纂法の認定医として協力CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 	59	<ul style="list-style-type: none"> 認定等への対応、医療編纂法の認定医として協力CRT(静岡県こころの緊急支援活動)支援員登録者1人 	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9月末</th> <th>H24.9月末</th> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </table> <p>※実績はH24.9月末現在</p>	医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)		区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末	こころ	8	6	7	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。</p>					
医療編纂法による認定入院受入実績 (単位：件)																					
区分	23年度	H23.9月末	H24.9月末																		
こころ	8	6	7																		

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考															
						説明																	
第1 4 医療に関する地域への支援	1		60	<ul style="list-style-type: none"> 医師不足の公的病院に医師を派遣できる体制の整備を図るため、医師を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡済生会病院等へ医師を派遣し、診療を行っている。 <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (公的病院) (単位：機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>延べ人数</td> <td>408</td> <td>179</td> <td>232</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	医療機関	5	4	5	診療科	3	2	3	延べ人数	408	179	232	A	(実績)に対する評価 静岡済生会病院(全診療日)、島田市民病院、藤枝市立総合病院、焼津市立病院(各々1回)、つばさ静岡(月2回)に派遣している。
	区分	23年度	H23.9末	H24.9末																			
	医療機関	5	4	5																			
	診療科	3	2	3																			
	延べ人数	408	179	232																			
	2 (2)	<p>地域 of 病院への医師派遣や地域の初期救急への応援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の小児1次救急医療への応援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡市急病センター等へ医師を派遣し、診療を行っている。 <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (急病センター)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日数(日)</td> <td>296</td> <td>148</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>人員(人)</td> <td>357</td> <td>198</td> <td>172</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	日数(日)	296	148	148	人員(人)	357	198	172	A	(実績)に対する評価 静岡市急病センター、志太穂原地域救急医療センターへ毎月医師を派遣している。						
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																				
日数(日)	296	148	148																				
人員(人)	357	198	172																				
		<ul style="list-style-type: none"> 国内外の医療機関との映像情報を通じた研修や診断を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内3病院と連携し、遠隔画像診断を行っている。 <table border="1"> <caption>心エコー画像遠隔診断 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	施設数	4	4	4	症例数	10	8	18	A	(実績)に対する評価 県内4医療機関と連携し24時間体制で画像診断を行っている。						
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																				
施設数	4	4	4																				
症例数	10	8	18																				
		<ul style="list-style-type: none"> 遠隔診断による小児医療最適化事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 9月より映像送信による浜松医科大学との合同カンファレンスを開始した。(月1回月初金曜日) 国立循環器センターへ、当院のオペ室からカテーテル手術のライブ映像送信を行い、医療技術の紹介・連携の取組を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は大規模病院との映像送信を定期に開始した。画像の診療、治療への有効性を確認し、来年度は地域の中核病院との連携について調整している。 	A	(実績)に対する評価 今年度は大規模病院との映像送信を定期に開始した。画像の診療、治療への有効性を確認し、来年度は地域の中核病院との連携について調整している。																	
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習研修受け入れ状況 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>301</td> <td>233</td> <td>224</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	受入数	301	233	224	A	(実績)に対する評価 院内関係部署の調整・研修看護部が中心となり、院内関係部署の準備をし、増加する実習希望に対応している。										
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																				
受入数	301	233	224																				
		<ul style="list-style-type: none"> 医療情報等の発信による地域支援 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会やセミナーなどを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開講演会開催件数 (単位：回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	開催件数	7	3	7	A	(実績)に対する評価 オープンセミナー、講演会を開催している。									
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																				
開催件数	7	3	7																				

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

中期計画 第1 4 医療に関する地域への支援	年度計画 1 2 (2)	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価 説明		備考																																			
					開催状況 区分	対象・実施時期等	参加者数等	(実績)に対する評価 県内におけることも精神保健ネットワークの中核機能を担う。																																				
			66	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、検討会や説明会などを継続的に開催する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象・実施時期等</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>隔月実施(年5回)</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>院内相談会</td> <td>子ども・家族</td> <td>8施設</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月2回実施(年24回)</td> <td>12回(相談件数7件)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小・中学校、幼稚園職員</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>月2回実施(年24回)</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9未現在</p>	区分	対象・実施時期等	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	3回	児童養護施設巡回相談	隔月実施(年5回)	91人	院内相談会	子ども・家族	8施設		月2回実施(年24回)	12回(相談件数7件)		小・中学校、幼稚園職員	0回		月2回実施(年24回)	0人	A	(実績)に対する評価 県内におけることも精神保健ネットワークの中核機能を担う。 (課題) 相談会への参加者増を図るため、広報活動、受け入れ態勢の検証が必要。																
区分	対象・実施時期等	参加者数等																																										
精神保健講座	県内小中学校教諭	3回																																										
児童養護施設巡回相談	隔月実施(年5回)	91人																																										
院内相談会	子ども・家族	8施設																																										
	月2回実施(年24回)	12回(相談件数7件)																																										
	小・中学校、幼稚園職員	0回																																										
	月2回実施(年24回)	0人																																										
		社会的要請への対応 ことも	67	<ul style="list-style-type: none"> 小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者自立支援法、児童福祉法、精神保健法などの実施に協力する。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>23年度</th> <th>H23.9末</th> <th>H24.9末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,731</td> <td>1,622</td> <td>1,642</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>994</td> <td>515</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>275</td> <td>99</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>234</td> <td>51</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>140</td> <td>86</td> <td>277</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>244</td> <td>40</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>105</td> <td>21</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,723</td> <td>2,434</td> <td>3,039</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9未現在</p>	区分	23年度	H23.9末	H24.9末	小児慢性	1,731	1,622	1,642	育成医療	994	515	602	養育医療	275	99	150	特定疾患	234	51	142	生活保護	140	86	277	精神保健	244	40	182	その他	105	21	44	計	3,723	2,434	3,039	A	(実績)に対する評価 証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応している。 (課題) 公費負担には本人による申請が必要となる。公費の認定には時間がかかると、請求が遅れるケースがある上、本人の申請が遅れた場合などの対応については検討が必要である。	
区分	23年度	H23.9末	H24.9末																																									
小児慢性	1,731	1,622	1,642																																									
育成医療	994	515	602																																									
養育医療	275	99	150																																									
特定疾患	234	51	142																																									
生活保護	140	86	277																																									
精神保健	244	40	182																																									
その他	105	21	44																																									
計	3,723	2,434	3,039																																									
		地球温暖化への対応、省エネ対策のため エコ活動に取り組む	68	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化への対応、省エネ対策のためエコ活動に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> エコアクションWGを設置し職員の省エネ行動推進の啓蒙を行っている。 特に夏場において、院内照明点灯の再検討、空調の効率的運用等節約に努めた。 ESCO事業の導入 22年度に工事が完了し、本年度は効果の実績について検証中。 		(実績)に対する評価 各セクションに目標設定してもらい、職員の省エネ意識の高揚を図っている。 (課題) 職員の省エネ意識を高めるための情報提供が必要。																																					

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価説明	備考																																																				
第1 5 災害等における医療救護	I 1 (1) (2) (3)	計画実施のための手段			<p>防災訓練等の主な実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>H24.5.29</td> <td></td> <td>安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.7.18</td> <td></td> <td>県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.7.18</td> <td></td> <td>県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.9</td> <td></td> <td>火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.30</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.30</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.9.2</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.9.6</td> <td></td> <td>火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.11.22</td> <td></td> <td>静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.12.2</td> <td></td> <td>東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H25.1.17</td> <td></td> <td>県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H25.3.2~3</td> <td></td> <td>DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・災害医療訓練を実施する。</p>	区分	月	日	実施内容	総合	H24.5.29		安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。		H24.7.18		県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))		H24.7.18		県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))		H24.8.9		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)		H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。		H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。		H24.9.2		県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。		H24.9.6		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)		H24.11.22		静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。		H24.12.2		東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)		H25.1.17		県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。		H25.3.2~3		DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。	<p>業務の実績</p> <p>(実績に対する評価) 情報伝達、避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を実施した。</p> <p>(課題) 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>	
区分	月	日	実施内容																																																								
総合	H24.5.29		安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。																																																								
	H24.7.18		県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))																																																								
	H24.7.18		県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))																																																								
	H24.8.9		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)																																																								
	H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。																																																								
	H24.9.2		県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.9.6		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)																																																								
	H24.11.22		静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.12.2		東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)																																																								
	H25.1.17		県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。																																																								
	H25.3.2~3		DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。																																																								
		本県における災害等発生に備えた取組を充実する	69		<p>防災訓練等の主な実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>月</th> <th>日</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>H24.5.29</td> <td></td> <td>安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.7.18</td> <td></td> <td>県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.7.18</td> <td></td> <td>県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.9</td> <td></td> <td>火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.30</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.8.30</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.9.2</td> <td></td> <td>県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.9.6</td> <td></td> <td>火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.11.22</td> <td></td> <td>静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24.12.2</td> <td></td> <td>東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H25.1.17</td> <td></td> <td>県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H25.3.2~3</td> <td></td> <td>DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。</td> </tr> </tbody> </table> <p>・災害医療訓練を実施する。</p>	区分	月	日	実施内容	総合	H24.5.29		安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。		H24.7.18		県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))		H24.7.18		県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))		H24.8.9		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)		H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。		H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。		H24.9.2		県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。		H24.9.6		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)		H24.11.22		静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。		H24.12.2		東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)		H25.1.17		県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。		H25.3.2~3		DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。	<p>業務の実績</p> <p>(実績に対する評価) 情報伝達、避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を実施した。</p> <p>(課題) 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>	A
区分	月	日	実施内容																																																								
総合	H24.5.29		安否情報確認システムによる情報伝達訓練をおこなった。																																																								
	H24.7.18		県及び市と連携し、EMIS等を用いて、情報伝達訓練を行った。(特化型実践訓練(医療救護))																																																								
	H24.7.18		県本部のDMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。(特化型実践訓練(医療救護))																																																								
	H24.8.9		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に44名参加)																																																								
	H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.8.30		県総合防災訓練(本部運営)において、EMIS等による情報伝達訓練を行った。																																																								
	H24.9.2		県総合防災訓練(実動訓練)において、愛鷹広域公園のSOSI運営訓練にDMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.9.6		火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。(新規採用職員を中心に22名参加)																																																								
	H24.11.22		静岡空港航空機事故対応総合訓練に、DMAT1チームが参加した。																																																								
	H24.12.2		東海地震を想定し、トリアージ訓練を行う。(職員を中心に170名程度が参加予定)																																																								
	H25.1.17		県大病棟図上訓練において、DMAT調整本部設置訓練にDMAT1チームが参加する予定。																																																								
	H25.3.2~3		DMAT中部ブロック訓練(石川県)にDMAT1チームが参加する予定。																																																								
					<p>場所</p> <p>総合情報確認システムによる情報伝達訓練を行う。</p> <p>県間の病棟における火災発生を想定し、各セクションにおいて図上訓練を実施、その後全体で通報訓練及び避難訓練を行う。</p> <p>夜間の病棟における火災発生を想定した訓練を実施する。</p> <p>トリアージ図上訓練：研修会(8月2、22日)を行った後、地震発生時を想定し、トリアージの図上訓練を行った。</p> <p>総合防災訓練：実発的な大規模地震発生を想定し、本部運営、情報伝達訓練を実施した。</p> <p>トリアージ実践訓練：主に病院の外に施設を備えて、トリアージの流れに沿った実践訓練を実施した。</p> <p>H25.1下旬 後期想定防火避難誘導訓練実施予定。</p>																																																						

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考
				<p>災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い、発生時に迅速な対応ができるようにする。</p>	<p>東日本大震災を契機として、3病院で既存の災害対応マニュアルの見直しを行っているところである。また、設備面での見直しについては、総合病院では上水を市水から井戸水に切り替えることを検討中で、こちらの医療センターでは避難経路の照明の増設等について検討している。こども病院では、地震により長期間の孤立が想定されるため、対策を検討中である。</p>	<p>(課題) <ul style="list-style-type: none"> 医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める(航空機による搬送計画等検討)。 被災く医療について、福島第一原子力発電所相当地の事故に対応する体制・医療計画について県をはじめ関係機関と協議する。 </p>	
		<p>他県等における災害等発生に備えた取組を充実する</p>	70	<p>災害医療救護応援班の訓練を実施する</p>	<p>東日本大震災に対して、県医療救護班を岩手県宮古市へ派遣した(H23の5チームから通算して29チーム)。 H23.04 一般医療班4チーム(総合同編成) H23.04～H24.03 精神医療班20チーム 毎月1～2回各4日間延52人(こころ) ・県医療救護班に対する薬剤及び診療材料の供給を行った。 H23.04～05(総合) ・福島県秦野避難区域の住民の一時帰宅のためのスクリーニング業務に放射線技師を派遣した。 H23.07.18～22 2名(総合、こども) ・DMAT研修への参加(総合) DMAT隊員の不足に対応するため、養成研修に参加(医師1名、看護師1名、ロジ3名(放射線技師1名、事務2名))。このことにより、3チーム編成が可能となった。</p>	<p>(課題) <ul style="list-style-type: none"> 他機関主催のDMATが活動する訓練に積極的に参加する。 </p>	

3 項目別実績

中期計画 第1 県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置
 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価		備考
					業務の実績	自己評価			
第1 6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成	1	医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る	71	・研修医の確保に努める。	【総合】 ・H23初期研修医 1年生 13人(うち自治医3人)、2年生 9人(うち自治医2人) ・H24初期研修医 1年生 18人(うち自治医3人)、2年生 14人(うち自治医3人) ・H25初期研修医 1年生 18人(うち自治医2人)、2年生 17人(うち自治医3人)	A	(実績に対する評価) 研修医の確保については、積極的に取り組みができた結果、今年度は募集枠を満たすことができた【総合】 (課題) 質が高く研修医に選ばれた研修の仕組みを確立する。		
	3				【こころ】 ・H23初期臨床研修医10人受入れ 【こども】 ・H23後期研修医4人受入れ(院内後期研修医13人)				
	(3)								
			72	・看護師・その他医療従事者等の実習・ア ルバイト研修等の受入れを推進する。	実習・アルバイト研修等の受入れ (単位:人)	A	(実績に対する評価) 研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。 (課題) 医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。		
			73	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	柔軟な採用試験の実施 (単位:回)	A	(実績に対する評価) 看護師試験の試験員に看護師長を加えたり、事務職試験のエントリーシート選考などの工夫を行った。また試験後の早期採用などに引き続き取り組んだ。内定者のフォローとして事務職についてはパー・職員勉強会へ参加を案内している。 (課題) 採用応募者の更なる増加等のため、効果的に周知等を行うよう工夫を図る必要がある。		
			74	・医療従事者確保に向け、就職説明会等を積極的に開催する。	合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。 ・新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。 看護学生向け就職説明会 (単位:人)	A	(実績に対する評価) 看護学生を対象とした就職説明会については、面接した学生を採用試験に結びつけることができただけで、今の学生の志向等をつかむ参考になった。 (課題) 今年度の実績を踏まえ、より効果的・効果的な就職説明会を行い、人員確保につなげる。		
			75	・研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	本部署主催研修 (単位:人)	A	(実績に対する評価) 階層別の研修体系を確立し、実施内容の見直しを実施するなど、職員全体のスキルアップを図っている。また、事務職員の能力アップを図るため、業務研修として新たなメニュー(会計事務、人事管理ほか)を実施している (課題) ・研修カリキュラムの充実や実施方法の充実 ・職員の研修ニーズ把握		

3 項目別実績

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのとるべき措置
 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価		備考																						
					計画達成率	達成状況	説明	評価																							
第1 6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成																															
			76 (新)	<ul style="list-style-type: none"> 看護師修学資金制度の創設により、看護師確保を図る。 	<p>修学資金の貸付状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H24決定</th> <th>取消</th> <th>H24.9月末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12ヶ月 (~H25.3)</td> <td>34</td> <td>△ 3</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>24ヶ月 (~H26.3)</td> <td>14</td> <td>△ 1</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>36ヶ月 (~H27.3)</td> <td>19</td> <td>0</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>48ヶ月 (~H28.3)</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>87</td> <td>△ 4</td> <td>83</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H24決定	取消	H24.9月末	12ヶ月 (~H25.3)	34	△ 3	31	24ヶ月 (~H26.3)	14	△ 1	13	36ヶ月 (~H27.3)	19	0	19	48ヶ月 (~H28.3)	20	0	20	計	87	△ 4	83	<p>(実績)に対する評価) 感染管理、集中ケア、退院調整等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置することができた。 また、資格取得を推奨・支援する体制も整っている。</p> <p>(課題) 今年度の実績を踏まえ、効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につなげる。</p>	
	区分	H24決定	取消	H24.9月末																											
12ヶ月 (~H25.3)	34	△ 3	31																												
24ヶ月 (~H26.3)	14	△ 1	13																												
36ヶ月 (~H27.3)	19	0	19																												
48ヶ月 (~H28.3)	20	0	20																												
計	87	△ 4	83																												
	1 3 (3)	<p>【総合】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師研修に2人を派遣(乳がん看護2人)し、研修済。(取得見込) 認定看護師2人(緩和ケア1人、脳卒中リハビリ1人)が年度途中で退職 認定看護管理者1人取得 がん薬物療法認定薬剤師3人、がん専門薬剤師1人、認定実務実習指導薬剤師8人、感染制御認定薬剤師1人取得。 専門理学療法士2人(運動器、内臓腫瘍理学療法)の高方1人、内臓腫瘍理学療法1人)取得。 <p>【こころ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師研修に 1人(うつ病看護)派遣中 <p>【こども】</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定看護師研修に3人派遣(新生児集中ケア看護、感染管理、集中ケア看護) 	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師による院内研修会の企画・開催、他の看護師からの相談対応、事例検討会の開催、各種基準の見直し・作成を行っている。 その他、感染対策、緩和ケア等の対策チームへの参加、看護外来としての高度な個別指導等を行っている。 	<p>(実績)に対する評価) 認定看護師を中心に、病院全体の業務の質の向上に関する各種取り組みがなされており、他の職員の資質向上にも貢献している。</p> <p>(課題) 引き継ぎ、資格取得者の能力が有効に活用できる体制づくりを進める。</p>	A																										
		<p>高度医療を支える医療従事者の専門能力の向上を図る一環として、認定資格等の取得奨励を推進する体制の整備を図る</p>	77 (76)	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師等の資格取得を支援することにより、診療の質の向上に努める。 																											
			78 (77)	<ul style="list-style-type: none"> 院内における資格取得者の活用を促進する。 																											

3 項目別実績

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置
 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																														
		<p>メディカルスキルアップセンターを利用した実践的な研修を通じて、医療技術の向上を促進する研修体制の整備を図る</p>	79 (78)	<p>・メディカルスキルアップセンターの活用 の促進を図る。</p>	<p>・研修医や新人ナースは必ずメディカルスキルアップセンターを使用している。医師の研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの利用を取り入れ始めている。 ・外部利用については、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。</p> <p>メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2">23年度</th> <th colspan="2">H23.9月末</th> <th colspan="2">H24.9月末</th> </tr> <tr> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> <th>うち外部利用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>54</td> <td>39</td> <td>10</td> <td>60</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>883</td> <td>710</td> <td>120</td> <td>818</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>69</td> <td>32</td> <td>2</td> <td>63</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>713</td> <td>484</td> <td>32</td> <td>513</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>26</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>522</td> <td>57</td> <td>57</td> <td>230</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH24.9末現在</p>	区 分	23年度	H23.9月末		H24.9月末		うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	医師	54	39	10	60	9	参加人数	883	710	120	818	41	看護師	69	32	2	63	11	参加人数	713	484	32	513	74	その他	22	3	3	26	19	参加人数	522	57	57	230	147	<p>(実績に対する評価) 基本手技シミュレーター、蘇生訓練用品、臨床各科訓練用品等を実際使用することで、医療技術の向上に寄与した。医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。</p> <p>(課題) 外部利用の促進のためには、広報等の戦略を練る必要があるが、専任の管理者等がいいため、体制整備が必要。</p>	
区 分	23年度	H23.9月末		H24.9月末																																																	
		うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用	うち外部利用																																																
医師	54	39	10	60	9																																																
参加人数	883	710	120	818	41																																																
看護師	69	32	2	63	11																																																
参加人数	713	484	32	513	74																																																
その他	22	3	3	26	19																																																
参加人数	522	57	57	230	147																																																

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																		
						説明																				
第2 1 簡素で効率的な組織づくり	I 3 (2)	医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映	80 (79)	<ul style="list-style-type: none"> 組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 同一敷地にある本部職員センターと総合病棟の重複・類似する業務について、職員センターに統一し、事務の効率化を図った。 病院現場のニーズに迅速に対応するため、会計病程等により、支出等の決裁権限を大幅に病院長へ委任している。 理事会、運営会議、経営担当課長会議、総務担当課長会議を毎月開催(8月を除く)し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等に緊急な課題に対する即時的な対応を行っている。 	A	(実績に対する評価) 毎月の理事会や運営会議等の開催を通して、機軸幹部が常に経営状況を把握するとともに、状況の変化に応じた的確な予算措置や組織改正を行うなど、独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を行っている。																			
									81 (80)	<ul style="list-style-type: none"> 未収金の圧縮を図るため、未収金の収納対策等について外部の専門会社を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> H24から弁護士事務所へ委託先を変更したため、切替えの特殊要因により年度当初は新規委託件数等が減少していたが、回復しつつある状況である。 	A	(実績に対する評価) アウトソースの活用により、回収業務の効率化を図っている。													
															<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>回収額計</th> <th>新規委託件数</th> <th>回収件数</th> <th>うち部外件数</th> <th>前年同期回収額計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4,251</td> <td>238</td> <td>176</td> <td>71</td> <td>7,316</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>1,159</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>8</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,278</td> <td>342</td> <td>257</td> <td>96</td> <td>7,495</td> </tr> </tbody> </table> ※実績はH24.9末現在	区分	回収額計	新規委託件数	回収件数	うち部外件数	前年同期回収額計	総合	4,251	238	176	71
区分	回収額計	新規委託件数	回収件数	うち部外件数	前年同期回収額計																					
総合	4,251	238	176	71	7,316																					
子ども	1,159	46	49	8	36																					
計	6,278	342	257	96	7,495																					
82 (81)	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬の適正請求にかかる研修会等 	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬の適正請求にかかる研修会として、全職員を対象に、4月3日に「診療報酬における10の心得」、9月27日に外部講師(社保支払基金事業管理課長)による「当院の査定注意点について」を実施。今後、同じく外部講師による講習会を2～3月に予定している。 毎月の医局会において、医師に対して保険診療の注意点を周知徹底している。 医事プロローバー職員に対して、各種手術見学やNST等チーム医療の実践現場等の見学を行い、診療報酬算定におけるイメージ(結びつき)力を養成している。 平成24年8月末までにおいて、総合病棟で30件(リンクアップ1件含む)、こども病棟でリンクアップ1件の施設基準取得した。 	A	(実績に対する評価) 研修会については、業務の質の向上を目指して確実に実施している。また、新たな施設基準の取得にも積極的に取り組み、経営改善に努めている。																						

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考				
						説明						
第2 効率的な業務運営の実現	1 1 (1)		83 (82)	<ul style="list-style-type: none"> ・診療材料費等の削減のための対策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・診療材料費の削減に向けて、平成21年度に策定した「診療材料に関する理事長指示」に基づき、各病院において、診療材料に關わる職員の意識の徹底を図っている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の削減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を導入するとともに、機構に薬品を納入する卸業者の数を絞り込み、値引率向上を図っている。 	A	<p>(課題)</p> <p>新制度導入の継続的な効果測定を行い、診療材料費、薬品費の更なる削減を図る。院内物流管理のあり方を、SPD (Supply Processing Distribution (物品・物流の包括的管理業務))の導入の可否も含めて調査・研究していく。</p> <p>また、ジェネリック薬品の導入促進については、病院別の目標設定も含め検討していく。</p>					
	2 (2)								<ul style="list-style-type: none"> ・効率的な医療機器購入及び管理のため、コスト削減への取組を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に策定した「医療機器購入基本方針」に基づき、医療機器保守契約の最適化を図るとともに、保守契約については、3病院一括化及び複数年契約化、同種業務の包括化を行っている。 	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>医療機器保守委託の3病院一括化及び複数年化等による削減効果の継続及び、新規購入と合せた複数年保守契約による保守金額の削減。</p>
	3 (3)											
84 (84)	<ul style="list-style-type: none"> ・委託費の削減を図るため、3病院一括化、複数年契約化を行っている。 ・医事等業務については、3病院とも開院以来初めて、競争原理を導入したプロポーザル方式による業者選定を行った結果、「業務改善提案」や「第三者機関による診療報酬制度調査」等の改善に向けた取組がなされている。 ・各業務委託については、四半期ごとに業務に対するモニタリングを行い、業務の質の維持・向上を図っている。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>3病院(もしくは2病院)で集約化した委託等の契約は23件、うち複数年化を行ったものは20件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の集約につながっている。</p>	A	<p>(課題)</p> <p>複数年化、一本化・包括化を行った契約の更新に際し、効果水準の維持を図ると共に、更なる改善に向けた検討を行う。</p>								

H24 委託モニタリング評価結果

区分	第1期	第2期	第3期
給食	可	可	可
総・心・子	可	可	可
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期
清掃	可	可	契約初春
消毒	可	可	
警備	可	可	
機器保守	可	可	
医事	可	可	

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価		備考																														
						説明	備考																															
第2 3 事務部門の 生産性の向 上	1 3 (3)	計画実施のための手段 職員に対する経営情報の共有化を推進し、経営意識の向上を図る体制の整備を図る	86 (86)	・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会や病院運営会議において、四半期毎の経営状況を分析し、報告を行った。 ・理事会における審議、報告事項や経営状況を3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に毎月報告し、周知を図った。 ・新採用職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 ・院内コミュニケーションシステムを通じて、理事会資料等の情報を全職員に向け提供している。 ・「職員報」においても、病院の経営状況を盛り込み、意識醸成を図った。 	<p>(実績に対する評価) 経営分析を職員に周知することにより、職員の経営に対する意識啓発が図られた。</p> <p>(課題) 職員への情報伝達手段として、院内コミュニケーションシステム等を活用した運用面での周知徹底が必要である。</p>																																
					<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院において、電子カルテシステムのオプションとして原価管理システムを導入した。医師のタイムスタディをH22年度中に実施し、原価管理システムに取り込んで運用している。随時、マスタの設定の見直し等を行っている。データの蓄積を続けて各診療科の動きがつかめるようにしたい。 	<p>(実績に対する評価) 医師のタイムスタディやマスタ設定の見直し等、随時データの修正・検証を行っており、順調に作業を進められた。</p> <p>(課題) システム運用に関しては、まずは継続的にデータを蓄積し、その推移から経営状況の把握を目指すこととし、活用については戦略提案会議などにおいて今後さらに議論していく方針。</p> <p>麻酔科、リハ科、放射線など集中部門的な科は、他科へ収入が分配されるため重態では乖離が出る等、科別の比較資料とするには課題がある。当面、数値は参考値としてとらえ、活用については今後検討していく。</p>	A																															
					<ul style="list-style-type: none"> ・就職情報サイトへの情報掲載、合同就職説明会へ参加して、就職希望者の拡大を図った。 ※計2回(東京12月、静岡1月) 延べ243人参加 ・県主催で実施した「大学・企業担当者情報交換会」に参加し、真珠園大学等へ機構の事務職員募集をPRした。 ・県内大学(静岡大学、静岡県立大学)の学内説明会に参加し機構の事務職員募集をPRした。(計大33人、県大11人) 	<p>(実績に対する評価) 24年度については、計画人員を確保するため、追加試験を実施中である。</p> <p>(課題) プロバパー職員の各病院・本部のバランスのとれた配置、人事ローテーションなども工夫し、専門性の高い職員を育成していく必要がある。</p>	A																															
第2 4 業務改善に 不断に取り組 む組織風土 の醸成	1 3 (1) (2) (3)	プロバパー職員(事務部門)の確保 職員による経営・業務改善の提案を奨励する制度を充実し、提案の反映を推進する	87 (87)	・業務の標準化、事務職員の円滑なプロバパー化に資するため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・3病院業務別担当者連絡会(研修会)を実施している。 ・本部、3病院事務部における担当部署毎に業務の洗い出しを行い、優先度の高いものをマニュアル化を行っている。 ・院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、共有化している。(定期的に更新を行う仕組みを検討中) 	<p>(実績に対する評価) 本部・病院で共通性の高い人事・給与・予算・決算事務において法人共通マニュアルを作成することにも、個々の引き継ぎレベルの業務についてもマニュアル化を進めた。</p> <p>(課題) 3病院担当者連絡会や集約したマニュアルを活用し、病院間業務の標準化を図る。</p>	A																															
					<ul style="list-style-type: none"> ・法人化後構築した「改革・改善推進制度」に基づき、引き続き、職員が改革改善に進んで取り組めるよう促した。 ・院内コミュニケーションシステムを利用して、誰もが積極的に参加でき、また他職員の改善提案を確保できるような仕組みを整備した。 	<p>(実績に対する評価) 職員からの改革改善成果について、昨年度と比較して増加しており、職員の改革改善に対する取り組みが進んでいると考えられる。</p> <p>(課題) より多くの職員が、自ら改革・改善へ取り組むよう促すとともに、機構内において汎用性がある、より良い提案に対しては、機構内への徹底を図る仕組みを検討する。</p>	A																															
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24(予定)</th> <th>前年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>47</td> <td>57</td> <td>60</td> <td>63</td> <td>105%</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>24</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>121%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>23</td> <td>27</td> <td>35</td> <td>32</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>7</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>16</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>101</td> <td>118</td> <td>133</td> <td>134</td> <td>101%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：件) 改革・改善推進制度実績件数</p>	区分	H21	H22	H23	H24(予定)	前年度実績	総合	47	57	60	63	105%	こころ	24	17	19	23	121%	こども	23	27	35	32	91%	本部	7	17	19	16	84%	計	101	118
区分	H21	H22	H23	H24(予定)	前年度実績																																	
総合	47	57	60	63	105%																																	
こころ	24	17	19	23	121%																																	
こども	23	27	35	32	91%																																	
本部	7	17	19	16	84%																																	
計	101	118	133	134	101%																																	

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績	自己評価 説明	備考																																																												
第2 5 就労環境の 向上	I 3 (1) (2)	計画実施のための手段	91	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日かから看護師の2交代制勤務を制度化した。また、平成23年11月より県立こども病院において看護師2交代制勤務の試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日かから看護師の2交代制勤務を制度化した。また、平成23年11月より県立こども病院において看護師2交代制勤務の試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>県立総合病院、県立こども病院において2交代勤務を制度化した。今後、県立こどもの医療センターにおいても導入を検討を行い、働きやすい環境づくりを進める。</p> <p>(課題)</p> <p>A 人材の確保、職員にとっても働きやすい労働環境の整備等の観点から、夜勤専従者の配置や短時間正職員制度など、これまで以上の多様な勤務形態について、引き続き検討していく。</p>																																																													
				<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務形態の導入を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・3病院の医師宿舎については、入居者の意向に配慮した宿舎とするための検討を経て、平成23年度未建設工事を完了した。 ・総合病院院内保育所については、WGを設置し、職員のニーズに合致した保育所とするための検討を経て、平成23年度末に建設工事を完了した。 ・総合病院において職員数の増加に対応するため、駐車場の確保に努めた。 	<p>(実績に対する評価)</p> <p>優秀な医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の整備を着実に進めた。</p> <p>(課題)</p> <p>A こども病院の老朽化した医師宿舎の取り換えについて検討を進める。 こども病院院内保育所については、職員のニーズに合致した保育所とするための検討を進める。</p>																																																													
		<ul style="list-style-type: none"> ・医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る 	92	<ul style="list-style-type: none"> ・総合病院及びこども病院の医師宿舎・看護宿舎の整備を図る。 また、総合病院及びこども病院の院内保育の拡充に向けた検討を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3病院合わせて、医療秘書49人(43.57人工)、病棟支援員9人(看護師充足までの間の施策的増員分)を配置した。 また、総合病院に続き、こども病院においても医師専務作業補助体制加算を取得し、H23は2病院ともラングアップを行った。 ・看護師支援のための病棟支援員については、看護師手と同様の業務を行っていたことから、24年度から看護師手に一本化して管理するものとした。 <table border="1"> <caption>医療秘書の配置 (単位：人工)</caption> <thead> <tr> <th>H24</th> <th>診療業務</th> <th>学会業務</th> <th>院内事務</th> <th>雑務</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>20.30</td> <td>0.00</td> <td>6.97</td> <td>1.80</td> <td>29.07</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0.85</td> <td>0.00</td> <td>0.10</td> <td>0.05</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>6.46</td> <td>1.96</td> <td>1.60</td> <td>3.48</td> <td>13.50</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27.61</td> <td>1.96</td> <td>8.67</td> <td>5.33</td> <td>43.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護助手 (病棟支援員を含む) の配置 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>看護助手数 43</td> <td>47</td> <td>47</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>看護助手数 8</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>看護助手数 16</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>看護助手数 67</td> <td>72</td> <td>70</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td></td> <td>支援員数 18</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※実績はH25.1末現在</p>	H24	診療業務	学会業務	院内事務	雑務	計	総合	20.30	0.00	6.97	1.80	29.07	こども	0.85	0.00	0.10	0.05	1.00	こども	6.46	1.96	1.60	3.48	13.50	計	27.61	1.96	8.67	5.33	43.57	区分	H21	H22	H23	H24	総合	看護助手数 43	47	47	54	こども	看護助手数 8	9	7	9	こども	看護助手数 16	16	16	20	計	看護助手数 67	72	70	83		支援員数 18	10	10		<p>(実績に対する評価)</p> <p>医療秘書の配置については、調査において、事務負担軽減の効果(軽減効果が7割以上)が確認されている。</p> <p>看護助手(病棟支援員を含む。)業務については、看護師数(病棟支援員を含む。)の配置については、看護師数の不足に伴い増加している。</p> <p>(課題)</p> <p>A 医療秘書については、更にその役割の周知に努め、効果的な活用を図っていく必要がある。 看護助手(病棟支援員を含む。)業務については、看護師業務との効果的な分担を研究・推進する必要がある。</p>	
H24	診療業務	学会業務	院内事務	雑務	計																																																														
総合	20.30	0.00	6.97	1.80	29.07																																																														
こども	0.85	0.00	0.10	0.05	1.00																																																														
こども	6.46	1.96	1.60	3.48	13.50																																																														
計	27.61	1.96	8.67	5.33	43.57																																																														
区分	H21	H22	H23	H24																																																															
総合	看護助手数 43	47	47	54																																																															
こども	看護助手数 8	9	7	9																																																															
こども	看護助手数 16	16	16	20																																																															
計	看護助手数 67	72	70	83																																																															
	支援員数 18	10	10																																																																

3 項目別実績

中期計画 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置

※ () は23年度実績の番号【76番追加による変更】

中期計画	年度計画	計画実施のための手段	NO	行動計画	業務の実績		自己評価		備考																															
					23年度	H24.9未	説明	評価																																
第2 5 就労環境の 向上	1 3 (1) (2)	医師・看護師がより専門性の高い業務に専念できるよう就労環境の整備を行う	94	<ul style="list-style-type: none"> ・有期看護職員の採用試験を随時に実施する体制を整備した。 ・有期医師を正規職員に準じた労働条件にし、処遇の改善を行った。 ・採用後の手続きの迅速化を図り、現場への早期補充を行った。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">時間外勤務の状況</th> <th colspan="2">(単位：時間/人・月)</th> </tr> <tr> <th>職種</th> <th>23年度</th> <th>H23.9未</th> <th>H24.9未</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>52</td> <td>52</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>23</td> <td>22</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>有期雇用医師</td> <td>59</td> <td>60</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>▲ 5 ▲ 8.3</td> </tr> </tbody> </table>	時間外勤務の状況		(単位：時間/人・月)		職種	23年度	H23.9未	H24.9未	医師	52	52	54	看護師	6	5	5	コメディカル	23	22	21	事務	25	29	33	有期雇用医師	59	60	55				▲ 5 ▲ 8.3	A	<p>(実績に対する評価) 年度中途の事情変化等に対し、有期雇用職員等の弾力的な採用を行うことにより、即時的な対応ができた。</p> <p>(課題) 短期的な需給関係等に対応した労働条件設定の更なる弾力化の検討</p>	
						時間外勤務の状況		(単位：時間/人・月)																																
職種	23年度	H23.9未	H24.9未																																					
医師	52	52	54																																					
看護師	6	5	5																																					
コメディカル	23	22	21																																					
事務	25	29	33																																					
有期雇用医師	59	60	55																																					
			▲ 5 ▲ 8.3																																					
				<ul style="list-style-type: none"> 【総合】一般食堂は4月から開店し、コンビニは7月から開店した。外来改修工事も完成した。 ・職員休憩室を地階から環境の良い北館6階に移動した。 【ところ】一部二交代制勤務の導入に伴い、夜勤職員用の休憩室を、3階フロアに4部屋(男女別)2部屋ずつ)確保した。 ・男性看護師の増加に伴い、南3フロアに男性用の休憩室を確保した。 				<p>(実績に対する評価) 職員のみならず、患者の利便性の向上に資するため院内の継続的な環境改善に努めている。総合病院におけるカフェは職員、患者双方に好評であり、予想を上回る実績を上げている。総合病院の正面玄関前に建設するアミニティ棟(一般食堂)と1階外来エリアの真中に整備するコンビニは、従来の地階の食堂・売店に比べて利用者の利便向上が大きいと期待される。</p> <p>(課題) 引き続き、就労環境の改善に向けた取組を実施していく。</p>	A																															

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと解釈している。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistant Teamの略で、災害の発生直後(48時間以内)に被災現場へ駆けつけ、救出・救助部門と合同して活動できるトレーニングを受け、機動性を持った災害派遣医療チーム(DMAT:ディーマツト)。
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払い制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFICU	MFICUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。

用語（50音順）	解 説
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、全国で4か所しかない専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。 （※全国4か所：静岡県立こども、国立成育医療センター、長野県立こども、兵庫県立こども）
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書（医師事務作業補助者）	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）並びに行政上の業務（救急医療情報システムへの入力等）への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。
クリニカルパス	クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。 クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。

用語（50音順）	解 説
クロザピン	クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された者及び緊急入院した救急患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数} + \text{救急患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）＝研修医（狭義、＝前期研修医、1-2年目）＋後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とはほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>

用語（50音順）	解 説
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・他の医療機関からの紹介患者数の比率が80%以上であること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>